

平成 20、21 年度  
中期目標の達成状況報告書

平成 22 年 6 月  
大分大学

# 目 次

## . 中期目標の達成状況

1	教育に関する目標の達成状況 . . . . .	1
2	研究に関する目標の達成状況 . . . . .	12
3	社会との連携、国際交流等に関する目標の達成状況 . . . . .	19
	. 「改善を要する点」についての改善状況 . . . . .	22

## 中期目標の達成状況

### 1 教育に関する目標の達成状況

中項目	1 教育の成果に関する目標	
-----	---------------	--

小項目番号	小項目 1	小項目	「学士課程」豊かな創造性と社会性を身に付けた人材を育成するために、課題発見・解決型の能力と、積極的に地域並びに国際社会に関わり、社会の要請に応えられる能力を開発する教育を行う。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。

小項目番号	小項目 2	小項目	「学士課程」教養教育は、学部一貫教育体制の下に、修得した知識や技術を、より広い視野から自己の世界観・社会観・人間観として統合できる総合的な判断力の育成と、基礎的専門知識や技術の習得を目標とする。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
下記以外の 中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。
計画 2 - 1	教養教育の全般的見直しを行い、豊かな感性と教養並びに倫理観を備えた、人間性豊かな人材を育成する。		平成 20 年度の全学教育機構新設を踏まえて、平成 21 年度から新たな教養カリキュラムを実施している。全学教育研究課題に対応したコンセプトに基づく 10 主題、各主題 10 科目程度、154 科目を開講した。主題「自己を認識し、進路を考える」では、VOD 形式で学生が自主的に学習する「大分大学の人と学問」、学生自身が計画的学習を進める「プロジェクト型学習入門」等を新設するとともに、平成 20、21 年度の特別教育研究経費を活用して、VOD 方式の「大分大学グローバルキャンパス」を一層促進させるとともに、グループワークが可能な演習室を整備した。主題「持続可能な地域・社会を構築する」では卒業生・企業アンケートから要請されている社会性の涵養のため、田植え・稲刈り等農作業体験やビーチクリーン等環境保全などの地域社会での体験活動を組み込んだ授業「大分の水」,「里海と里山」等を、平成 21 年度 GP 大学教育推進プログラムとして実施した。(別添資料 1-1-1, P1・2, 別添資料 1-1-2, P3)

<p>計画 2 - 2</p>	<p>少人数クラス編成により，教養教育・導入教育等の充実を図る。</p>	<p>教養教育全学教育科目における少人数形式のグループワーク学習授業，また，実習・演習形式を取り込んだ授業として，平成 20 年度からは「英文経営テキストの読み方」を開設するとともに，8 科目の「国際理解教育ゼミナール科目」を新設している。平成 21 年度には「身近な科学実験」，グループワーク学習授業「プロジェクト型学習入門」を新設するなど，実習・演習形式を取り込んだ授業を展開している。具体的には，年 20 科目以上の少人数編成の授業を展開した。</p> <p>さらに，平成 22 年度にはこれらの少人数クラス編成授業を対象として，特別経費「動機づけと形成的評価を重視した学士課程教育開発 - 学生のふり返りと見通しを促すシステムの開発 - 」により，ポートフォリオシステムによる適正な評価を実施・構築するための準備を整えた。</p> <p>(別添資料 1-1-3, P4, 別添資料 1-1-4, P5)</p>
-----------------	--------------------------------------	---

小項目番号	小項目 3	小項目	「学士課程」 創造性と社会性を備えた人材の育成を志向した教育の成果・効果を検証するために継続的な調査・分析を行うとともに，その分析結果を生かすための組織的な検討を行う。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
下記以外の 中期計画	/		平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。
計画 3 - 3	社会（雇用主等）に，卒業生及び修了生の能力及び教育成果に関する調査を行い，その調査結果を教育課程・教育内容等の改善に活用できるシステムを構築する。		<p>「教育成果に関する社会（雇用主等）からの調査」(平成 18 年度実施)結果を踏まえ、教養教育では、平成 21 年度からキャリア形成支援に寄与する主題「自己を認識し、進路を考える」を設け、「プロジェクト型学習入門」等の科目を新設するとともに、体験活動型授業（「大分の水」など）を導入した。専門教育では、経済学部での東京でのインターンシップの実施、工学研究科建設工学専攻の「建築設計インターンシップ」の導入、医師のキャリアパス形成の充実を図る医学部の「附属地域医療学センター」の設置などを実施した。また、社会からの調査結果を教育に反映させるため、教育担当副学長の下に各学部就職委員長及び教務委員長からなるキャリア教育推進連絡会議を新設し、企業 80 社を対象とする教育成果に関する調査を実施した。その結果(別添資料 1-1-5, P6)を教育に反映させるべく次年度全学教育機構で議論することとした。(別添資料 1-1-6, P6)</p>

小項目番号	小項目 4	小項目	「大学院課程」 様々な年齢，キャリア，国籍をもつ人材を受入れ，創造的で高度な専門教育を行い，社会でリーダーシップを取りうる高度な専門性を備えた人材，各専門分野で知のフロンティアを切り拓きうる人材を育成する。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。


小項目番号	小項目 5	小項目	「大学院課程」 大学院教育の成果・効果を検証するために継続的な調査・分析を行うとともに，その分析結果を生かすための組織的な検討を行う。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
下記以外の 中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。
計画 5 - 2	高等教育開発センター（仮称）を中心として，FD 研修会等を定期的かつ継続的に企画・開催し，教材，学習指導法等の一層の充実を図る。		<p>大学院 FD については、全学と各研究科で実施している。全学的 FD として、平成 20・21 年度は、いずれも 10 企画を実施した。たとえば、大学院教育改革などの FD 講演会は、より一般的な教育・指導方法を研修できる。e ラーニングや授業公開・授業検討会などの FD 研修会は、教材・学習指導方法の具体的な改善に結びついた。さらに、WebClass 利用者講習会や利用のコンサルティングでは、シラバスや授業資料の編成など、各教員の相談に応じている。これに対して、各研究科では、修士論文・博士論文に関する合同報告会を研究科単位などで実施している。全学 FD に関しては、実施報告書を作成し、web 上で公開するとともに、関係の全学委員会で実施報告を行っている。そして、FD 活動への意見や研究科からの要望をもとに翌年度の企画立案につなげている。また、各研究科の取組みは、全学 FD の補完として研究科間の研究・指導内容の相違に配慮したものである。</p> <p>（別添資料 1-1-7，P7，1-1-8，P8）</p>

中項目	2 教育内容等に関する目標	
-----	---------------	--

小項目番号	小項目 1	小項目	
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
下記以外の 中期計画	<p>入学後の追跡調査に基づき，推薦・社会人などの特別選抜，一般選抜及び編入学について，選抜方法及び募集人員等の見直しを検討する。</p>		平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。
計画 1 - 3			<p>学部の追跡調査及び関係委員会での検討を踏まえ，継続的に選抜方法や募集定員等の見直しを実施した。医学部医学科では，平成 19 年度入学生の追跡調査結果を踏まえ、平成 22 年度入試から推薦と後期日程の募集を廃止して A0 入試を導入し、前期日程の入学定員を改めた。工学部では，平成 24 年度推薦入試から小論文-I、II を廃止して新たな選抜方法を実施し、一部の学科では推薦定員を変更する。経済学部では，平成 21 年度編入学試験から志望理由書等提出書類の配点を引き上げ、平成 22 年度入試から商業科推薦の募集定員を削減し、A0 入試の募集定員を増やした。平成 24 年度入試からは中国引揚者等子女入試を廃止し、A0 入試第 1 次選考合格者数を変更する。入学企画支援センターが入学後の全学的規模での追跡調査を実施し、平成 22 年 2 月調査報告書を作成して各学部を選抜方法及び募集定員等の見直しの検討を依頼した。</p> <p>(別添資料 1-1-9, 1-1-10, P9)</p>

小項目番号	小項目 2	小項目	
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
下記以外の 中期計画	<p>育てるべき人材像に基づいた教育課程の編成を行うとともに，教育課程</p>		平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。
計画 2 - 4			<p>教養教育に関しては平成 21 年 4 月から，学際性育成の視点から「総合」分野を新設するとともに，体系的，発展性を持った知識涵養の観点から，科目を 10 の主題に区分して体系的に配置し，</p>

	<p>の見直し・点検を組織的に行い、その改善・充実を図る。</p>	<p>発展的な講義には「展開レベル」であることを明示し、段階性の強化を図った。(別添資料 1-1-1, P1)</p> <p>また、各学部に関しては、教育福祉科学部では、「教職実践演習」導入に対応して、平成 22 年度より「教職コア科目」3 科目の新設を決定した。</p> <p>経済学部では、高校教育の補習科目として「数学基礎 A・B」を平成 21 年度より新たに設け、また、「上級簿記」を新設した。</p> <p>工学部では、平成 21 年度に JABEE 対応カリキュラムでの教育を開始した。</p> <p>医学部では、地域医療教育の充実のために平成 20 年 4 月から専門科目を改訂した。</p> <p>(別添資料 1-1-11, P10・11)</p>
<p>計画 2 - 7</p>	<p>大学院教育との接続を考えた教育課程を編成し、進学希望者に対して適切な指導を行う。</p>	<p>学士課程と大学院課程との接続に直接的に寄与する教育課程の取組として以下のような改善を行った。経済学部では、平成 22 年度から大学院講義科目の一部に大学院生の支援の下で学部生の履修を認める「大学院接続講義」の開設を決定した。工学部では、「知の創造プロジェクト」を実施し、実システムの開発による PBL (Problem-Based Learning) を推進した。これは学部生と大学院生が枠を超えた学びの場を提供する。また、大学院講義「無機構造解析特論」への大学院進学決定者の受講により、学部-大学院の連携教育を実施した。教育福祉科学部では、大学院進学への動機付けを促すために、学部生が大学院生と共同して、不登校などの児童生徒にサポートを行う取組(大分市教育委員会「メンタルフレンド派遣事業」、児童自立支援施設「二豊学園」へのサポート)を行った。</p> <p>(別添資料 1-1-12, P12・13)</p>

<p>小項目番号</p>	<p>小項目 3</p>	<p>小項目</p>	<p>「学士課程」全学的な共通教育としての教養教育の履修基準・区分・内容・教育方法・成績評価等について検討・見直しを組織的に実施し、その改善・充実を図る。</p>
<p>計画番号</p>	<p>中期計画</p>		<p>平成 20 年度及び 21 年度における実施状況</p>
<p>全中期計画</p>			<p>平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。</p>

小項目番号	小項目 4	小項目	「大学院課程」各研究科の理念に基づいて教育課程を編成し，授業の開講方式や授業形態と内容，学習指導法，成績評価などについて継続的に点検評価し，組織的にその改善・充実を図る。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。



中項目	3 教育の実施体制等に関する目標	
-----	------------------	--

小項目番号	小項目 1	小項目	
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
下記以外の 中期計画	教育研究評議会及び教養教育委員会、並びに教務委員会の議を経て、教養教育と専門教育との横断的な連携を図るための体制を早急に確立する。		平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。
計画 1 - 2			平成 20 年度に設置した全学教育機構は、教育担当副学長が統括し、各学部教務委員会及び教育関係全学センター、学生支援部で構成し、教養教育の実施責任母体として全学出動による教養教育を実現している。 同機構は、平成 21 年度より新たな教養教育カリキュラムを実施し、人文社会自然分野に加えて、新たに学際性の高い科目に対応した「総合」分野を設定するとともに、全学教育研究課題に対応させた新たな主題科目を体系的に配置した。これにより、全学共通ゼミナール科目に人文、総合の分野区分を設定して、教養教育科目の学部における卒業要件との関連を学生にわかりやすく明示した。また、教養教育科目のうち入門から発展した内容の授業について「展開レベル」として学習段階を明示した。全学教育機構が確立したことにより、教養教育の新たなカリキュラムにおいて、教養教育から専門教育へと至る体系性・系統性が整備された。 (別添資料 1-1-1, P1・2, 別添資料 1-1-2, P3)

小項目番号	小項目 2	小項目	
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
下記以外の 中期計画	教育研究評議会及び教養教育委員		平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。
計画 2 - 1			平成 20 年度に設置した全学教育機構は、教育担当副学長が統括し、各学部教務委員会及び教育

	<p>会，並びに教務委員会の議を経て，教養教育と専門教育との横断的な連携を図るための体制を早急に確立する。</p>	<p>関係全学センター，学生支援部で構成し，教養教育の実施責任母体として全学出動による教養教育を実現している。</p> <p>同機構は，平成 21 年度より新たな教養教育カリキュラムを実施し，人文社会自然分野に加えて，新たに学際性の高い科目に対応した「総合」分野を設定するとともに，全学教育研究課題に対応させた新たな主題科目を体系的に配置した。これにより，全学共通ゼミナール科目に人文，総合の分野区分を設定して，教養教育科目の学部における卒業要件との関連を学生にわかりやすく明示した。また，教養教育科目のうち入門から発展した内容の授業について「展開レベル」として学習段階を明示した。全学教育機構の確立によって，教養教育の新たなカリキュラムにおいて，教養教育から専門教育へと至る体系性・系統性が整備された。</p> <p>(別添資料 1-1-1，P1・2，別添資料 1-1-2，P3)</p>
--	---	---

小項目番号	小項目 3	小項目	メディア教育の重視など時代の流れに沿った教育環境の整備を進めると同時に，社会の要請に応えられる教育を目指し，教育の質の改善，新教材の開発，学習指導法の研究などを継続的に行う。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。

小項目番号	小項目 4	小項目	附属図書館を整備し，学術情報の収集・提供の拡充を図り，学習・研究支援施設として利用者のニーズに応じた効果的なサービスを行う。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。

中項目	4 学生への支援に関する目標
-----	----------------

小項目番号	小項目 1	小項目	
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
下記以外の 中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。
計画 1 - 3	学生の学ぶ意欲を引き出し、それに 応えるための相談体制と学習効果を 高める助言体制の整備・充実を図る とともに、学習支援のための環境整 備に努める。		平成 20 年度学生支援 GP「不登校傾向の学生へのアウトリーチ型支援」の取組として、学部教務委員会等による履修指導等の機会に不登校傾向にある学生や学業面の問題等を抱える学生について、保健管理センターや学生支援 GP の支援チームに紹介し、きめ細やかな支援を行う体制を構築した。支援の中核となる施設として、平成 20 年 10 月に学生の居場所や学習サポートデスクを備えた「ぴあ ROOM」を開設し、精神科医、ソーシャルワーカー及び臨床心理士による相談と学習アドバイザーや学生チューターによる学習相談の両方を結びつける形で支援している。また、平成 22 年 2 月には医学部学生対象に「挟間キャンパスぴあ ROOM」を開設し、学生支援の強化を図るための環境整備を行った。 (別添資料 1-1-13, P14)
計画 1 - 4	学生の学習を支援するため、指導教 員、保健管理センター、事務職員等 (教員以外の者)の3者が連携・協 力を図るためのネットワーク作りを 行い、オフィスアワー制度の見直し、 TA 及びチューターの配置、進路相談 体制等、学生の生活面及び精神面で のサポート体制を強化する。		従来から保健管理センター教員、各学部教務委員、学生生活委員及び事務職員で構成されるメンタルヘルス専門委員会や学生相談ミーティングにおいて学生相談に関する連携・協力を行ってきたが、支援体制を強化するために学生支援 GP の取組として平成 21 年度から各学部教授会の時間を利用したアウトリーチ型ミニ FD を実施し、青年期の発達心理や不登校心理についてより多くの教員の理解を深めて学生生活での困難を抱える学生への早期支援に努めている。また、学生支援 GP で配置している学生チューターは、学習面だけでなく生活面でのピアサポートも担うようになってきた。 (別添資料 1-1-14, P15)

計画 1 - 6	各学部及び保健管理センター等において、学生の生活や心身の健康に関するカウンセリング等の相談体制と健康管理のための支援体制を整備し、きめ細かい包括的な相談体制を構築する。	<p>平成 20 年度に選定された学生支援 GP の取組として臨床心理士によるカウンセリング体制を強化するとともにソーシャルワーカーによる家族支援や引きこもり学生への家庭訪問などの「アウトリーチ型支援」も行っており、従来のメンタルヘルス専門委員会による学部教職員・学生支援課・保健管理センターが協働して行ってきた学生支援を更に充実させることができた。その結果、平成 21 年度には休学中から復学に向けたサポートを行うことができた者が 5 名、欠席がちや単位修得が不良であったが改善した学生が 10 名、発達障害や精神障害を持つために学生生活や学習面で支障をきたしていたが改善をみた者が 15 名いた。また、平成 19 年度以降、麻しんに対する学生への健康指導を継続しており、平成 21 年度の新規インフルエンザ対策についても危機管理委員会と連携して感染防止に努め、保健管理センターを中心に心身両面から学生の健康管理を強化している。</p> <p>(別添資料 1-1-15, P16)</p>
計画 1 - 15	大学開放事業など各種の事業実施において学生との協力関係を構築し、学生の多様な成長を促すとともに教育効果の向上を図る。	<p>各種のイベントにおいて学生の参加を促し、学生との協働を図ることを持続的に追究してきたことにより、学生の自主的な参加が増え、また、サークル活動の成果発表の場を積極的に求めるなど、学生の大学開放・社会連携事業等の公の行事等に対する積極性を醸成することができた。</p> <p>特筆すべき事項として、平成 20～21 年度には、以下の事業に対して学生側からの自主的な参加申込みがあり、大学と学生との協働はさらに推進した。</p> <p>【平成 20 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中国・四川大地震被災者支援 60 名</li> <li>・第 8 回全国障害者スポーツ大会・チャレンジ！おおいた大会：150 名</li> </ul> <p>【平成 21 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おおいた協働ものづくり展」：13 名（ワークショップ開催）</li> <li>・大分大学と同窓生との交流会：6 名</li> <li>・地域自治会との懇談会：5 名（マンドリンクラブの演奏）</li> </ul>

計画 1 - 17	学生の人的成長を促す場として、正課外の自主的活動の活性化を図るとともに、施設の改善や条件整備を進める。	<p>「福利厚生施設整備計画策定の方向性」(H20.9 学生支援部門会議)を踏まえ、部室棟の新設・再編、合宿研修室リニューアル、水泳プールろ過装置交換・塗装補修、グラウンド整備等の施設改善を実施した。また、平成 21 年度には、課外活動の一層の推進を図るために、全サークルを対象に「課外活動支援アンケート調査」を実施し、今後の方向性を検討するとともに、各団体から要望のあった運動用具、運動器具、楽器及び船舶など課外活動備品等の更新を行った。</p> <p>また、課外活動推進プロジェクトでは、積極的な運用を図るため助成内容の見直しを策定し、支援体制をより一層強化した。</p> <p>以上、平成 19 年度までの取組みを上回るにより、正課外の自主的活動の活性化を図るとともに、施設の改善や条件整備を更に進めることができた。(別添資料 1-1-16, P17)</p>
-----------	---	---

2 研究に関する目標の達成状況

中項目		1 研究水準及び研究の成果等に関する目標	
小項目番号	小項目 1	小項目	独創的で、社会、とりわけ地域社会との連携を促進する研究を生み出すための方策を検討し、その検討結果を踏まえて研究の水準及び成果の向上に結び付く取組みを全学的に推進し、研究体制を整備する。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
下記以外の 中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。
計画 1 - 5	疾病を医学的側面のみならず、文化的・社会的・経済的背景を含めた生態系全体の中に位置付ける研究		<p>医学部附属病院に総合臨床研究センターを創設し、関東・関西以外の西日本で唯厚生労働省より治験中核病院として指定され、臨床研究体制を整備し総合臨床研究センターを創設し、新しい薬剤の治験の迅速化、並びにがん医療に関わる臨床試験の円滑な実施を推進し、「終末期がん患者の在宅医療システムの構築」「中核市の保健活動における地区活動と業務体制に関する研究」を実施し地域社会における保健・医療・福祉の向上に努めた。</p> <p>また、アジア諸国との必要な疫学研究を実現するために、ベトナム、タイ及び台湾の研究機関と研究協力のための協定を締結した。</p> <p>さらに、従来から交流協定を締結している中国、韓国等とも研究を推進し、アジアにおける文化、人類、社会・経済階級の違いがピロリ菌による疾病構造の変化を及ぼす事を示した。平成 22 年 2 月 6 日には大分においてアジア 6 力国から 30 名の研究者を招へいして、ピロリ菌の疫学・人類学的な背景を含めた国際会議を開催した。</p> <p>(別添資料 2-1-1, P18, 別添資料 2-1-2, P19, 別添資料 2-1-3, P19)</p>

<p>計画 1 - 7</p>	<p>研究の評価体制の充実を図る。</p>	<p>平成 21 年度に設置した「全学研究推進機構」に「評価委員会」を設置し、大型研究プロジェクトとしての発展の可能性について評価を行うための体制を整備した。</p> <p>また、法人化後毎年度実施してきた全学的自己評価について検証を行うとともに、第 2 期中期目標期間においては教育研究活動の評価を重点的に行う新たな自己評価方法を決定した。</p> <p>さらに、自己評価結果の法人運営への新たなフィードバックシステムとして、本学に関係の深いステークホルダー（本学学生，保護者，企業関係者，自治体関係者等）で構成される「大分大学ステークホルダー・ミーティング」を開催し，本学自己評価書について意見聴取を行った。寄せられた意見については，報告書としてまとめ，公開ホームページにおいて公表するとともに，平成 22 年度計画アクションプランの策定等に活用することとした。</p> <p>これにより、本学に関係の深いステークホルダーの意見を取り入れることが可能となり、より一層の関係者の期待に応えた大学運営の改善と改革が期待される。</p> <p>(別添資料 2-1-4，2-1-5，P20)</p>
-----------------	-----------------------	---

小項目番号	小項目 2	小項目	研究成果を地域社会並びに国際社会，特にアジア・環太平洋圏を中心とした地域の発展に資するべく積極的に還元・移転する。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
下記以外の 中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。
計画 2 - 1	地域社会との双方向のコミュニケーションの積極的な推進によって，社会貢献の充実を図るために，地域の産業振興や新産業創出などに貢献する共同研究を地域共同研究センター及びコミュニティ総合研究センターを中心に積極的に進める。		<p>研究シーズ集のあり方について，平成 20～21 年度においては，特に利用者の意見を反映し，より見やすく理解しやすい標記内容にすることに努めるとともに地域共同研究センターのホームページで，研究シーズ集のデータを公表した。また，共同研究契約書について見直しを行うとともに，産・学・学間共同研究契約書の雛形を作成し，また，大学院生等を共同研究等に参加させる場合の取り扱いについて，基本方針等を定めて重要通知として学内周知を行うなどの共同研究推進体制の整備を行った。</p> <p>講演会及び産学交流会の内容についても，地域のニーズ調査に基づいて企画実施した。</p>

<p>計画 2 - 2</p>	<p>イノベーション機構の設置によって、リエゾンオフィス等を一層充実させるとともに、相談等の窓口機能の充実を図る。</p>	<p>平成 20 年度に挟間リエゾンオフィスを新設、平成 21 年度に研究・社会連携課の社会連携グループを「社会連携推進室」として、旦野原、挟間の両キャンパスのリエゾンオフィス業務を統括させ、窓口機能の強化、学内の連絡体制の強化を図った。また、平成 19 年度に「地域連携支援コーディネータ」を配置して地域自治体との連携強化を図った結果、平成 20 年度からの連携事業数が飛躍的に増加した。</p> <p>このことにより、各種情報の確実な伝達、外部からの問合せに対する迅速な対応が図られ、次のとおり（独）科学技術振興機構（JST）公募事業において「シーズ発掘試験」の申請数・採択数の飛躍的な増加、自治体との連携事業の確実な増加が結果として現れている。</p> <p><b>【JST シーズ発掘試験】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 19 年度：申請件数 29 件，採択件数 6 件（うち医系シーズ 1 件）</li> <li>・平成 20 年度：申請件数 52 件，採択件数 9 件（うち医系シーズ 2 件）</li> <li>・平成 21 年度：申請件数 62 件，採択件数 21 件（うち医系シーズ 6 件）</li> </ul> <p><b>【自治体との連携事業数】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 19 年度：109 件</li> <li>・平成 20 年度：157 件</li> <li>・平成 21 年度：144 件</li> </ul> <p>なお、平成 22 年 4 月からは、既存の研究・社会連携課を 2 課に再編し、社会連携・知的財産業務に特化する社会連携推進課を新たに設置し、更に、知的財産担当主査を新たに配置することで、事務支援組織の充実・改組を行うこととしている。</p>
-----------------	---	---



中項目	2 研究実施体制等の整備に関する目標	
-----	--------------------	--

小項目番号	小項目 1	小項目	
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
下記以外の 中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。
計画 1 - 2	研究の重点化を図るため、教員の流動的 配置を行うシステムを構築する。		<p>特色ある研究推進に伴う流動的な配置等の実施に向けた学外公募を実施するとともに、医学部においては、講座再編のワーキンググループで検討し、一般教育・基礎系及び臨床系講座の再編成を策定し、実施した。</p> <p>さらに、平成 21 年 10 月に全学研究推進機構を設置し、全学的な重点研究の体制を構築した。</p> <p>全学研究推進機構において、平成 21 年 10 月に研究プロジェクトを公募の上、24 件の課題を選定し、研究を開始した。(配分額 1,008 万円)</p> <p>本年度採択した 24 件の研究プロジェクトについては、研究実績報告書を基に、平成 22 年度に評価を行う。</p> <p>(別添資料 2-1-6, P21)</p>
計画 1 - 4	研究活動を支援するため、研究支援 職員等を配置する。		<p>平成 21 年 10 月に設置した全学研究推進機構において、研究支援分野を設置し、研究を支援する教員 4 名と技術職員 13 名を配置した。</p> <p>(別添資料 2-1-4, P20)</p>

小項目番号	小項目 2	小項目	学術研究の動向等に応じて、研究組織の柔軟な編成や、学内外の研究組織・機関との連携・協力を図る。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
下記以外の 中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。
計画 2 - 4	学部・学科の枠にとらわれず、学内外の研究者の研究交流を促進するため、学内共同教育研究施設等の整備を行い、共同研究の体制を充実させる。		<p>学内共同教育研究施設の整備として、平成 21 年 10 月に全学研究推進機構を設置し、共同研究の体制を充実させ、学部・学科の枠にとらわれない重点領域の研究のための体制を整えた。本機構の設置を前提に本機構の研究環境整備支援等による研究プロジェクトを推進するため、平成 21 年度科学技術振興調整費：国際共同研究の推進「課題名：アジアにおけるヘリコバクター・ピロリ菌の分子疫学研究」及び研究者海外派遣基金助成金：組織的な若手研究者等海外派遣プログラム「課題名：東アジア分子疫学研究推進のための若手研究者派遣プログラム」の申請を行い、採択後、研究を推進した。</p> <p>また、全学教育機構、全学研究推進機構、イノベーション機構と揃うことで、本学の教育、研究、社会連携の 3 つの柱が立ち、大学としての全方位的な基盤が確立された。</p> <p>(別添資料 2-1-4, P20, 別添資料 2-1-7, 2-1-8, P22)</p>

小項目番号	小項目 3	小項目	研究成果の知的財産化を積極的に推進し、将来の財政基盤のひとつとしての位置付けを図る。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
下記以外の 中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。
計画 3 - 1	本学における知的財産の創出・取得・管理・活用を戦略的に実施するための体制として、大分大学知的財産本部を設置する。		<p>本学における知的財産の創出・取得・管理・活用を戦略的に実施するために、知的財産スタッフミーティングを毎月継続的に行い、また、関係規程の整備・簡素化を進め、知的財産管理体制について職員への理解度を促進した結果、発明届の増につながった。</p> <p>【発明届件数】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 19 年度： 38 件</li> <li>・平成 20 年度： 36 件</li> <li>・平成 21 年度： 42 件</li> </ul> <p>また、事務組織の見直しを行い、研究・社会連携課を二課に再編し、社会連携・知的財産を所掌する社会連携推進課を 4 月から新たに設置するとともに知的財産担当主査を新たに配置することとした。</p>

<p>計画 3 - 2</p>	<p>地域共同研究センターを中心に，教員のための知的財産に関する教育等を行い，教員の知的財産に対する理解と意識の向上を図り，あわせて事務職員等の知的財産管理能力を高める。</p>	<p>教職員向けの知的財産に関するセミナーを，平成 20 年度は 16 回，平成 21 年度は 7 回開催し，知的財産に対する意識啓発を十分に行った。参加者数は各回 30 名程度ではあるが，発明届件数の増として成果が現れている。</p> <p>また，工学研究科の学生を主たる対象とする「知的財産特論」も継続して実施している。</p> <p><b>【発明届件数】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 19 年度： 38 件</li> <li>・平成 20 年度： 36 件</li> <li>・平成 21 年度： 42 件</li> </ul>
<p>計画 3 - 4</p>	<p>VBL による学内インキュベーション活動を推進し，知的財産の活用を図る。</p>	<p>学生の起業家精神を涵養する「ベンチャー・ビジネスプランコンテスト」を継続して実施した。学内応募 8 件、九州大会への応募 7 件。うち 2 件が一次審査を通過した。</p> <p>多分野における若手研究者の積極的な参加及び研究を推進するため，若手プロジェクト研究、萌芽プロジェクト研究の募集を実施，また，第 3 期プロジェクト研究 A を開始し，学内インキュベーション活動を推進した。</p> <p><b>【研究助成採択件数】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ JST 重点地域研究開発推進プログラム（育成研究）： 68,770 千円、他 3 件： 6,000 千円</li> <li>・ NEDO 固体高分子形燃料電池実用化戦略的技術開発： 90,000 千円、他 2 件： 29,280 千円</li> <li>・ その他（文部科学省、経済産業省等） 8 件： 408,559.5 千円</li> </ul> <p><b>【主な受賞件数】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2009 年度先端錯体工学研究会奨励賞受賞 他 7 件</li> </ul>

計画 3 - 6	国際交流・学術振興基金の財源の確保に取組み，その運用方法を改善する。	<p>国際交流・学術振興基金から、学生の海外派遣、留学生の受入、研究者の招へい等について、事業費の配分を行い、経済学部においては、久保奨学基金により学生への奨学金の支給・学生の海外留学に対する援助等を行った。</p> <p>また、基金の運用方法については、今後の経済情勢等を考慮し、国際交流事業を中心とした予算配分とし、財源の確保等については、寄附の趣旨並びに申し込み方法等をホームページに掲載するとともに教職員へ周知し、資金の増額を図った。(別添資料 2-1-9, 2-1-10, P23)</p>
----------	------------------------------------	--

3 社会との連携、国際交流等に関する目標の達成状況

中項目		1 社会との連携、国際交流等に関する目標	
小項目番号	小項目 1	小項目	地域社会及び国際社会に開かれた大学として、地域社会、産業界、地方自治体及び国内外の大学との多様な連携・協力・支援関係を強化し、社会貢献を充実させるための体制を整備する
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
下記以外の 中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。
計画 1 - 7	諸外国の大学や研究所との共同研究体制を整備し、協力と支援を推進する。		<p>平成 19 年度に計画は完了したが、平成 20 年度及び平成 21 年度においても、以下のような共同研究体制の整備，協力と支援の推進があり，さらなる進展があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高雄医学大学（台湾） チュラロンコン大学（タイ），ハノイ医科大学（ベトナム） ホーチミン医科大学（ベトナム）と共同研究のための協定を締結</li> <li>・West Pomeranian University of Technology (旧 Poland, Szczecin 工科大学)環境工学科と学術交流を企画し，共同研究計画を実施</li> <li>・ラオス国立大学工学部土木工学科との共同研究(ラオスでの竹筋コンクリートの技術開発と社会実装)</li> <li>・釜山大学の教授と研究員を訪問（平成 21 年 12 月，平成 22 年 3 月）</li> <li>・韓国のハンバット大学研究者が来訪し合同のセミナーを実施（平成 21 年 5 月）</li> <li>・オーストラリアニューサウスウェールズ大（Lai 教授）と連携</li> <li>・福祉科学研究センター「福祉のまちおこし研究事業」で，大分市，別府市，中心市街地活性化協議会，自治会等と連携し，オックスフォード大学及び韓国尚志大学の研究者との共同研究の推進</li> </ul> <p>（別添資料 2-1-2，P19，別添資料 3-1-1，P24）</p>

計画 1 - 11	大分県内の他大学等の教員や企業人等を本学の研究員・研究生として積極的な受入れを図る。	<p>人材育成においては、社会人向けの MOT 講座を大分市と連携して、大分市産業活性化プラザで実施し、地域における産学官連携に携わる人材の育成に寄与した。</p> <p>また、工学部では、5名の客員教授（県内1名）と6名の客員研究員（県内5名）を採用し積極的な教員・企業人の受入を行なった。</p> <p>（別添資料 3-1-2, P25）</p>
計画 1 - 12	大分 TL0 に参加する地域の公私立大学等との研究上の連携を深め、中核大学としての役割を果たす。	<p>大分県内の高等教育機関による学・学連携型共同研究については、地域連携研究コンソーシアム大分を活動基盤として推進してきた。平成 20 年度は 29 件、平成 21 年度は 28 件の研究課題を設定し、また、平成 21 年においては 12 件の研究課題に対して研究費の助成を行い、高等教育機関における研究連携を順調に推進している。</p> <p>また、研究成果については、研究課題発表会、「産学官連携戦略展開事業（戦略展開プログラム）」シンポジウム、地域連携研究コンソーシアム大分と大分合同新聞社の共催イベント「豊の国ものづくり展」を開催し、共同研究により産まれた商品等について県民の方々へアピールを行うことにより、共同研究を推進するとともに、大分県の産学官連携活動の指針を示した。</p> <p>さらに、今後の地域連携研究活動の拡充を図るべく、本コンソーシアムの外部評価委員会を設置し、地域連携研究活動について評価を実施した。当該評価委員会からは、設定目標を上回る 57 件の研究課題を設定、また、研究発表会・各種イベントにおけるそれら研究活動・成果の公表活動について、研究成果の社会への還元活動として好評を得ているが、地域ニーズ・企業ニーズの把握の充実、また、研究発表会への企業・一般参加者を増やすための工夫が求められている。</p> <p>（別添資料 3-1-3, 3-1-4, P26）</p>
計画 1 - 17	国際交流・学術振興基金の適切な運用と増額について検討する。	<p>国際交流・学術振興基金から、学生の海外派遣、留学生の受入、研究者の招へい等について、事業費の配分を行い、経済学部においては、久保奨学基金により学生への奨学金の支給・学生の海外留学に対する援助等を行った。</p> <p>また、基金の運用方法については、今後の経済情勢等を考慮し、国際交流事業を中心とした予算配分とし、財源の確保等については、寄附の趣旨並びに申し込み方法をホームページに掲載するとともに教職員へ周知し、資金の増額を図った。</p> <p>（別添資料 2-1-9, 2-1-10, P23）</p>

<p>計画 1 - 18</p>	<p>JICA などによる国際的教育貢献活動に積極的に参加し、その業績を組織として適切に評価する。</p>	<p>JICA などによる研修生等の受入人数、派遣人数及び出身国については、別添資料 3-1-5 (P27) のとおりである。</p> <p>国際的教育貢献活動については、医学部において、JICA 食の安全確保のための人畜共通感染症対策コースに係る視察及び国別研修(ミャンマー)「マラリア対策」を実施した。</p> <p>国際的医療活動として、フィリピン国立サン・ラザロ病院において国際・熱帯感染症看護実践教育プログラムとして、医学部学生等を派遣し同行した教員により現地の問題点等について指導助言を行った。また、ベトナム社会主義共和国ベンチェ省において口唇・口蓋裂患者治療活動を行った。これらの活動については、学長裁量経費の措置により学生を派遣することで、国際的医療活動の意義を習得させた。</p> <p>医学部の「ドミニカ共和国中米カリブ地域画像診断技術向上(第三国研修)プロジェクト」が、ドミニカ共和国から高く評価されたことを受け、特に優れた業務実績として医学部長の推薦に基づき、学長による選考の結果、学長表彰を実施した。(別添資料 3-1-6, P28)</p>
------------------	---	--

## . 「改善を要する点」についての改善状況

改善を要する点	改善状況
<p>【教育】</p> <p>中期計画「教養教育の全般的見直しを行い、豊かな感性と教養並びに倫理観を備えた、人間性豊かな人材を育成する」について、全学教育機構の設置が平成 20 年度であり、また、教養教育の改革計画も平成 21 年度以降であるなど、平成 19 年度までは検討段階にとどまっており、計画が十分に進捗しているとはいえないことから、改善することが望まれる。</p>	<p>平成 20 年度の全学教育機構新設を踏まえて、平成 21 年から新たな教養カリキュラムを実施している。全学教育研究課題に対応したコンセプトに基づく 10 主題、各主題 10 科目程度、154 科目を開講した。主題「自己を認識し、進路を考える」では、VOD 形式で学生が自主的に学習する「大分大学の人と学問」、学生自身が計画的学習を進める「プロジェクト型学習入門」等を新設するとともに、平成 20、21 年度の特別教育研究経費を活用して、VOD 方式の「大分大学グローバルキャンパス」を一層促進させるとともに、グループワークが可能な演習室を整備した。主題「持続可能な地域・社会を構築する」では卒業生・企業アンケートから要請されている社会性の涵養のため、田植え・稲刈り等農作業体験やビーチクリーン等環境保全などの地域社会での体験活動を組み込んだ授業「大分の水 ・ 」,「里海と里山」等を、平成 21 年度 GP 大学教育推進プログラムとして実施した。</p> <p>以上のとおり、指摘に対する改善を実施した。 (別添資料 1-1-1, P1・2, 別添資料 1-1-2, P3)</p>
<p>【教育】</p> <p>中期計画「少人数クラス編成により、教養教育・導入教育等の充実を図る」について、教養教育における少人数ゼミナール科目がほぼ語学に限定されており、教養教育の充実が図られているとはいえないことから、改善することが望まれる。</p>	<p>教養教育では、語学・生涯スポーツゼミナール科目約 30 程度に加え、「思考と論理」「ものづくりの世界」等の少人数クラス 10 数科目を従来より実施してきた。</p> <p>さらに、平成 20 年度からは「英文経営テキストの読み方」を開講するとともに、8 科目の「国際理解教育ゼミナール科目」を新設した。平成 21 年度には「身近な科学実験」、グループワーク学習授業「プロジェクト型学習入門」を新設するなど、実習・演習形式を取り込んだ授業を展開している。具体的には、年 20 科目以上の少人数編成の授業を展開した。</p> <p>さらに、平成 22 年度にはこれらの少人数クラス編成授業を対象として、特別経費「動機づけと形成的評価を重視した学士課程教育開発 - 学生のふり返りと見通しを促すシステムの開発 - 」により、ポートフォリオシステムによる適正な評価を実施・構築するための準備を整えた。</p> <p>以上のとおり、指摘に対する改善を実施した。(別添資料 1-1-3, P4, 別添資料 1-1-4, P5)</p>



<p><b>【教育】</b></p> <p>中期計画「社会（雇用主等）に、卒業生及び修了生の能力及び教育成果に関する調査を行い、その調査結果を教育課程・教育内容等の改善に活用できるシステムを構築する」について、調査も簡易であり、結果を活用するシステムが構築されたとはいえないことから、改善することが望まれる。</p>	<p>「教育成果に関する社会（雇用主等）からの調査」（平成 18 年度実施）結果を踏まえ、教養教育では、平成 21 年度からキャリア形成支援に寄与する主題「自己を認識し、進路を考える」を設け、「プロジェクト型学習入門」等の科目を新設するとともに、体験活動型授業（「大分の水」など）を導入した。専門教育では、経済学部で東京でのインターンシップの実施、工学研究科建設工学専攻の「建築設計インターンシップ」の導入、地域医療に従事する医師のキャリアパス形成の充実を図る医学部の「附属地域医療学センター」の設置などを実施した。また、社会からの調査結果を教育に反映させるため、教育担当副学長の下に各学部就職委員長及び教務委員長からなるキャリア教育推進連絡会議を新設し、企業 80 社を対象とする教育成果に関する調査を実施した。その結果（別添資料 1-1-5, P6）を教育に反映させるべく次年度全学教育機構で議論することとした。（別添資料 1-1-6, P6）</p> <p>以上のとおり、指摘に対する改善を実施した。</p>
<p><b>【教育】</b></p> <p>中期計画「高等教育開発センター（仮称）を中心として、FD 研修会等を定期的かつ継続的に企画・開催し、教材、学習指導法等の一層の充実を図る」について、大学院教育課程のみを対象とした全学的な FD 講演会は 2 回であり、教材・学習指導法等の充実に関係していないことから、改善することが望まれる。</p>	<p>大学院 FD は、全学と各研究科で実施している。全学 FD では、年につき 10 回の企画・実施に増加した。これは、平成 19 年度の大学院 FD 講演会 2 回に比べて大幅増である。たとえば、大学院教育改革などの FD 講演会、教材・学習指導方法の改善に結びつく e ラーニングや授業公開・検討会などの FD 研修会がある。これに加え、各研究科独自の FD として、大学院担当者が院生指導の全般に渡って研鑽する機会となる修士論文・博士論文に関する合同報告会を研究科単位などで実施している。全学 FD に関しては、実施報告書を作成し、web 上で公開するとともに、関係の全学委員会で実施報告を行っている。そして、FD 活動への意見や研究科からの要望をもとに翌年度の企画立案につなげている。また、各研究科の取組みは、全学 FD の補完として研究科間の研究・指導内容の相違に配慮したものである。</p> <p>以上のとおり、教材・学習指導方法等の充実のため組織的対応を進め、指摘に対する改善を実施した。（別添資料 1-1-7, P7, 1-1-8, P8）</p>

<p><b>【教育】</b></p> <p>中期計画「入学後の追跡調査に基づき、推薦・社会人などの特別選抜、一般選抜及び編入学について、選抜方法及び募集人員等の見直しを検討する」について、入学後の追跡調査にとどまり、選抜方法及び募集人員等の見直しに結びつけられていないことから、改善することが望まれる。</p>	<p>学部の追跡調査及び関係委員会での検討を踏まえ、継続的に選抜方法や募集定員等の見直しを実施した。医学部医学科では、平成 19 年度入学生の実績調査結果を踏まえ、平成 22 年度入試から推薦と後期日程の募集を廃止して A0 入試を導入し、前期日程の入学定員を改めた。工学部では、平成 24 年度推薦入試から小論文-I、II を廃止して新たな選抜方法を実施し、一部の学科では推薦定員を変更する。経済学部では、平成 21 年度編入学試験から志望理由書等提出書類の配点を引き上げ、平成 22 年度入試から商業科推薦の募集定員を削減し、A0 入試の募集定員を増やした。平成 24 年度入試からは中国引揚者等子女入試を廃止し、A0 入試第 1 次選考合格者数を変更する。</p> <p>入学企画支援センターにおいて、入学後の全学的規模での追跡調査を実施し、平成 22 年 2 月調査報告書を作成して各学部に選抜方法及び募集定員等の見直しの検討を依頼した。</p> <p>以上のとおり、指摘に対する改善を実施した。(別添資料 1-1-9, 1-1-10, P9)</p>
<p><b>【教育】</b></p> <p>中期計画「育てるべき人材像に基づいた教育課程の編成を行うとともに、教育課程の見直し・点検を組織的に行い、その改善・充実を図る」について、教養教育についての取組は、実施体制の改編は進捗しているが、人材像に基づいた専門教育及び教養教育のカリキュラム改善・充実が十分に進捗しているとはいえないことから、改善することが望まれる。</p>	<p>教養教育に関しては平成 21 年 4 月から、学際性育成の視点から「総合」分野を新設するとともに、体系的、発展性を持った知識涵養の観点から、科目を 10 の主題に区分して体系的に配置し、発展的な講義には「展開レベル」であることを明示した。(別添資料 1-1-1, P1・2)</p> <p>専門教育に関して、医学部では地域医療教育の充実のために平成 20 年度からカリキュラムの改訂を順次行い、準備教育科目として講義を 3 時間、体験実習を 6 時間新設した。専門科目では「医学部附属地域医療学センター」を開設して地域保健や総合医療の講義を 32 時間に増やすとともに、地域医療実習として行う学外での臨床実習を 4 週間に延長した。また、工学部では、グローバル時代に生きる技術者養成の観点から、平成 21 年度に JABEE 対応カリキュラムでの教育を開始した。(別添資料 1-1-11, P10・11)</p> <p>以上のとおり、指摘に対する改善を実施した。</p>

<p><b>【教育】</b></p> <p>中期計画「大学院教育との接続を考えた教育課程を編成し、進学希望者に対して適切な指導を行う」について、早期卒業制度や修士課程への学部推薦制度等が、「大学院教育との接続を考えた教育課程の編成」に該当しているとはいえないことから、改善することが望まれる。</p>	<p>学士課程と大学院課程との接続に直接的に寄与する教育課程の取組として以下のような改善を行った。</p> <p>経済学部では、平成 22 年度から大学院講義科目の一部に大学院生の支援の下で学部生の履修を認める「大学院接続講義」の開設を決定した。工学部では、「知の創造プロジェクト」を実施し、実システムの開発による PBL (Problem-Based Learning) を推進した。これは学部生と大学院生が枠を超えた学びの場を提供する。また、大学院講義「無機構造解析特論」への大学院進学決定者の受講により、学部-大学院の連携教育を実施した。教育福祉科学部では、大学院進学への動機付けを促すために、学部生が大学院生と共同して、不登校などの児童生徒にサポートを行う取組(大分市教育委員会「メンタルフレンド派遣事業」、児童自立支援施設「二豊学園」へのサポート)を行った。</p> <p>以上のとおり、指摘に対する改善を実施した。(別添資料 1-1-12, P12・13)</p>
<p><b>【教育】</b></p> <p>中期計画「教育研究評議会及び教養教育委員会、並びに教務委員会の議を経て、教養教育と専門教育との横断的な連携を図るための体制を早急に確立する」について、全学教育機構の設立が平成 20 年度であり、現時点では、全学的な教育実施体制により教養教育と専門教育の連携が十分に進捗しているとはいえないことから、改善することが望まれる。</p>	<p>平成 20 年度に設置した全学教育機構は、教育担当副学長が統括し、各学部教務委員会及び教育関係全学センター、学生支援部で構成し、教養教育の実施責任母体として全学出動による教養教育を実現している。</p> <p>同機構は、平成 21 年度より新たな教養教育カリキュラムを実施し、人文社会自然分野に加えて、新たに学際性の高い科目に対応した「総合」分野を設定するとともに、全学教育研究課題に対応させた新たな主題科目を体系的に配置した。これにより、全学共通ゼミナール科目に人文、総合の分野区分を設定して、教養教育科目の学部における卒業要件との関連を学生にわかりやすく明示した。また、教養教育科目のうち入門から発展した内容の授業について「展開レベル」として学習段階を明示した。全学教育機構の確立によって、教養教育の新たなカリキュラムにおいて、教養教育から専門教育へと至る体系性・系統性が整備された。</p> <p>以上のとおり、指摘に対する改善を実施した。(別添資料 1-1-1, P1・2, 別添資料 1-1-2, P3)</p>

<p><b>【研究】</b></p> <p>中期計画「疾病を医学的側面のみならず、文化的・社会的・経済的背景を含めた生態系全体の中に位置付ける研究」について、中期計画に対する取組は、文化的・社会的・経済的背景の中に位置付けられた研究とはいえないことから、改善することが望まれる。</p>	<p>医学部附属病院に総合臨床研究センターを創設し、関東・関西以外の西日本で唯一厚生労働省より治験中核病院として指定され、臨床研究体制を整備の上、総合臨床研究センターを創設し、新しい薬剤の治験の迅速化、並びにがん医療に関わる臨床試験の円滑な実施を推進し、「終末期がん患者の在宅医療システムの構築」「中核市の保健活動における地区活動と業務体制に関する研究」を実施し地域社会における保健・医療・福祉の向上に努めた。</p> <p>また、アジア諸国との必要な疫学研究を実現するために、ベトナム、タイ及び台湾の研究機関と研究協力のための協定を締結した。</p> <p>さらに、従来から交流協定を締結している中国、韓国等とも研究を推進し、アジアにおける文化、人類、社会・経済階級の違いがピロリ菌による疾病構造の変化を及ぼすことを示した。平成22年2月6日には大分においてアジア6カ国から30名の研究者を招へいして、ピロリ菌の疫学・人類学的な背景を含めた国際会議を開催した。</p> <p>以上のとおり、指摘に対する改善を実施した。(別添資料 2-1-1, P18, 別添資料 2-1-2, P19, 別添資料 2-1-3, P19)</p>
<p><b>【研究】</b></p> <p>中期計画「国際交流・学術振興基金の財源の確保に取組み、その運用方法を改善する」について、財源の確保及び運用方法の改善について、基本方針の策定にとどまり、運用方法の改善にまでは至っていないことから、改善することが望まれる。</p>	<p>国際交流・学術振興基金から、学生の海外派遣、留学生の受入、研究者の招へい等について、事業費の配分を行った。</p> <p>また、国際交流・学術振興基金について、「大分大学の国際交流に関する基本方針」に基づく改善を行った。</p> <p>基金の運用方法については、今後の経済情勢等を考慮し、予算額の見直しを行うとともに6事業への予算配分を廃止することで、国際交流事業を中心とする予算配分とした。</p> <p>財源の確保等については、寄附の趣旨並びに申し込み方法等をホームページに掲載するとともに教職員へ周知し、資金の増額を図った。</p> <p>以上のとおり、指摘に対する改善を実施した。(別添資料 2-1-9, P23)</p>

## 【社会等】

中期計画「JICA などによる国際的教育貢献活動に積極的に参加し、その業績を組織として適切に評価する」について、検討段階にとどまり、積極的な参加及び組織としての業績評価が十分に進捗しているとはいえないことから、改善することが望まれる。

JICA などによる研修生等の受入人数、派遣人数及び出身国については、別添資料 3-1-5 (P27) のとおりである。

国際的教育貢献活動については、医学部において、JICA 食の安全確保のための人畜共通感染症対策コースに係る視察及び国別研修(ミャンマー)「マラリア対策」を実施した。

国際的医療活動として、フィリピン国立サン・ラザロ病院において国際・熱帯感染症看護実践教育プログラムとして、医学部学生等を派遣し同行した教員により現地の問題点等について指導助言を行った。また、ベトナム社会主義共和国ベンチェ省において口唇・口蓋裂患者治療活動を行った。これらの活動については、学長裁量経費の措置により学生を派遣することで、国際的医療活動の意義を習得させた。

医学部の「ドミニカ共和国中米カリブ地域画像診断技術向上(第三国研修)プロジェクト」が、ドミニカ共和国から高く評価されたことを受け、特に優れた業務実績として医学部長の推薦に基づき、学長による選考の結果、学長表彰を実施した。

以上のとおり、指摘に対する改善を実施した。(別添資料 3-1-6, P28)

平成 20、21 年度  
中期目標の達成状況報告書  
(別添資料)

平成 2 2 年 6 月  
大分大学

## 目 次

資料 1-1-1	平成 21 年度開講授業科目一覧表	1
資料 1-1-2	シラバス「里海と里山」	3
資料 1-1-3	少人数科目一覧（語学とスポーツを除く）	4
資料 1-1-4	少人数科目シラバス（情報処理入門、ものづくりの世界）	5
資料 1-1-5	教育成果に関するアンケート結果	6
資料 1-1-6	キャリア教育推進連絡会議 会議概要	6
資料 1-1-7	平成 21 年度 FD 実施状況	7
資料 1-1-8	FD 実施報告	8
資料 1-1-9	入試区分別入学者成績追跡調査報告	9
資料 1-1-10	募集定員の見直し	9
資料 1-1-11	教育課程の見直し	10
資料 1-1-12	教育課程の編成（学部・大学院の接続）	12
資料 1-1-13	ぴあ ROOM に関する新聞記事	14
資料 1-1-14	ミニ FD の内容	15
資料 1-1-15	ぴあ ROOM 利用状況	16
資料 1-1-16	平成 21 年度学生支援の状況	17
資料 2-1-1	総合臨床研究センターホームページ	18
資料 2-1-2	国際交流協定校一覧（アジア関係のみ）	19
資料 2-1-3	ピロリ菌国際会議	19
資料 2-1-4	全学研究推進機構図	20

資料 2-1-5	平成 21 年度大分大学ステークホルダー・ ミーティング報告書	20
資料 2-1-6	全学研究推進機構採択プロジェクト	21
資料 2-1-7	科学技術総合推進費補助金交付決定通知書	22
資料 2-1-8	研究者海外派遣基金助成金交付決定通知書	22
資料 2-1-9	国際交流・学術振興基金の見直し状況	23
資料 2-1-10	平成 20・21 年度の経済学部久保奨学基金の予算額 ・・・・・・・・・・・・・・・・	23
資料 3-1-1	福祉のまちおこし研究事業 平成 21 年度事業報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・	24
資料 3-1-2	大分大学「平成 21 年度 MOT ( 技術経営 ) 講座」一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・	25
資料 3-1-3	豊の国ものづくり展開催概要	26
資料 3-1-4	産学官連携戦略展開事業 ( 戦略展開プログラム ) シンポジウム	26
資料 3-1-5	学生・研究生等の派遣・受入状況	27
資料 3-1-6	学長表彰	28



資料 1-1-1：平成 21 年度開講授業科目一覧表

Table with columns: 区分, 主題, 授業科目, 担当教員, 単位数, 学期, 限, 備考, 教・経, 2 大賢(工), 前月, 前日, 自然. This table lists various subjects and their details, including course numbers and schedules.

別表 1 平成 21 年度 開講授業科目一覧表 (田野原キャンパス)

Main table with columns: 区分, 主題, 授業科目, 担当教員, 単位数, 学期, 限, 備考, 履修. This is a detailed list of courses, including subject names, lecturers, credit hours, and semesters.

(出典：「教養教育科目ガイドブック平成 21 年度版」から抜粋)

資料 1-1-1：平成 21 年度開講授業科目一覧表

区	分	名	業	部	名	期	曜	限	分	備	考	頁
Ⅳ	ゼミナール	英語ゼミナール5	英・経・工	2	中渡 (経)	後	木	2	人文	2	2	181
		英語ゼミナール6	英・経・工	2	河上 (経)	後	水	2	人文	2	2	182
		英語ゼミナール7	英・経・工	2	渡 (経)	前	木	2	人文	2	2	183
		英語ゼミナール9	英・経・工	2	ハラシ (工)	前	金	2	人文	2	2	184
		英語ゼミナール12	英・経・工	2	松田 (工)	後	金	2	人文	2	2	185
		英語ゼミナール18	英・経・工	2	御手洗 (教)	前	金	2	人文	2	2	186
		英語ゼミナール19	英・経・工	2	御手洗 (教)	後	金	2	人文	2	2	187
		応用トイズ語I	英・経・工	2	池内 (教)	前	水	2	人文	2	2	188
		応用トイズ語II	英・経・工	2	池内 (教)	後	水	2	人文	2	2	189
		応用トイズ語III	英・経・工	2	安岡 (経)	前	水	2	人文	2	2	190
Ⅴ	ゼミナール	教養トイズ語I	英・経・工	2	佐々木 (教)	後	月	3	人文	2	2	191
		教養トイズ語II	英・経・工	2	安岡 (経)	前	月	3	人文	2	2	192
		教養トイズ語III	英・経・工	2	佐々木 (教)	後	月	3	人文	2	2	193
		教養トイズ語IV	英・経・工	2	池内 (教)	前	火	2	人文	2	2	194
		教養トイズ語V	英・経・工	2	佐々木 (教)	後	月	3	人文	2	2	195
		教養トイズ語VI	英・経・工	2	池内 (教)	前	火	2	人文	2	2	196
		教養トイズ語VII	英・経・工	2	佐々木 (教)	後	月	3	人文	2	2	197
		応用フランス語I	英・経・工	2	池内 (経)	前	水	2	人文	2	2	198
		応用フランス語II	英・経・工	2	安田 (経)	後	水	2	人文	2	2	199
		応用フランス語III	英・経・工	2	コモン (非)	前	火	2	人文	2	2	200
Ⅵ	ゼミナール	教養トイズ語I	英・経・工	2	コモン (非)	後	火	2	人文	2	2	201
		教養トイズ語II	英・経・工	2	コモン (非)	前	火	2	人文	2	2	202
		応用中国語I	英・経・工	2	藤川 (経)	前	水	2	人文	2	2	203
		応用中国語II	英・経・工	2	藤川 (経)	後	水	2	人文	2	2	204
		応用中国語III	英・経・工	2	藤川 (経)	前	火	2	人文	2	2	205
		応用中国語IV	英・経・工	2	藤川 (経)	後	火	2	人文	2	2	206
		応用中国語V	英・経・工	2	藤川 (経)	前	水	2	人文	2	2	207
		応用中国語VI	英・経・工	2	藤川 (経)	後	水	2	人文	2	2	208
		応用中国語VII	英・経・工	2	藤川 (経)	前	火	2	人文	2	2	209
		応用中国語VIII	英・経・工	2	藤川 (経)	後	火	2	人文	2	2	210
Ⅶ	ゼミナール	生体システム工学I	英・経・工	2	藤川 (経)	前	水	2	人文	2	2	211
		生体システム工学II	英・経・工	2	藤川 (経)	後	水	2	人文	2	2	212
		生体システム工学III	英・経・工	2	藤川 (経)	前	火	2	人文	2	2	213
		生体システム工学IV	英・経・工	2	藤川 (経)	後	火	2	人文	2	2	214
		生体システム工学V	英・経・工	2	藤川 (経)	前	水	2	人文	2	2	215
		生体システム工学VI	英・経・工	2	藤川 (経)	後	水	2	人文	2	2	216
		生体システム工学VII	英・経・工	2	藤川 (経)	前	火	2	人文	2	2	217
		生体システム工学VIII	英・経・工	2	藤川 (経)	後	火	2	人文	2	2	218
		生体システム工学IX	英・経・工	2	藤川 (経)	前	水	2	人文	2	2	219
		生体システム工学X	英・経・工	2	藤川 (経)	後	水	2	人文	2	2	220
Ⅷ	ゼミナール	国際理解入門	英・経・工	2	ホワイ (経)	前	月	2	人文	2	2	221
		国際理解入門II	英・経・工	2	ホワイ (経)	後	月	2	人文	2	2	222
		国際理解入門III	英・経・工	2	ホワイ (経)	前	火	1	人文	2	2	223
		国際理解入門IV	英・経・工	2	Lee (国七)	前	水	5	人文	2	2	224
		国際理解入門V	英・経・工	2	Lee (国七)	前	水	6	人文	2	2	225
		国際理解入門VI	英・経・工	2	金森 (国七)	前	水	2	人文	2	2	226
		国際理解入門VII	英・経・工	2	金森 (国七)	前	水	2	人文	2	2	227
		国際理解入門VIII	英・経・工	2	ホワイ (経)	前	月	2	人文	2	2	228
		国際理解入門IX	英・経・工	2	ホワイ (経)	後	月	2	人文	2	2	229
		国際理解入門X	英・経・工	2	ホワイ (経)	前	火	1	人文	2	2	230

(出典：「教養教育科目ガイドブック平成21年度版」から抜粋)

## 資料 1-1-2 : シラバス「里海と里山」

授業科目名 (科目の英文名)						区分・分野・コア
里海と里山～水辺から考える持続可能な地域社会～ ( The Relationship between the Coastal Sea and the Country-side. )						全学共通科目 総合
必修 選択	単位	対象 年次	学部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1・2・3・4	全	後期	集中	川野田実夫(教育福祉科学部)他 内線: 7657 E-mail: ich@cc.oita-u.ac.jp
【授業のねらい】 大分県沿岸のサンゴ等海洋生物の現状と、内陸の緑地環境の関連を理解するとともに、自然環境やそこで生活する人々との交流を通じて、地域づくりや地球規模での共生社会について実態的に理解を深めます。さらに海上巡検、地域における交流や活動支援、集団学習の体験を通じて、学生相互に、また地域の人々と共に学びあいます。						
【具体的な到達目標】 1.自然と他者との共生、循環型社会、持続可能な社会など基礎的知識を習得するとともに、専門学習を深めるきっかけとします。 2.グループ・集団での学習・生活など大学における基盤的な勉強法の習得をめざします。 3.地域の人々との交流により社会生活上の基本的な関係のあり方も学びます。						
【授業の内容】 1 ガイダンス (1/29 12.30- 教養教育棟第一大講義室) 2～4 おおいた学生水フォーラムへの参画 (大分市文化会館第二小ホール 2/13土曜日午後13時～18時) 5～8 里海と里山の関係とそれぞれの地域づくり (2/19 午前9時～16時半 教養教育棟第一大講義室) 9～13 体験学習と自然観察巡検: 佐伯市蒲江・マリンカルチャーセンターでの合宿、海上巡検 (2/20-21土日一泊二日) 参加費: 1500円程度 11時半大分大学教養教育棟出発→蒲江 13時蒲江→15時大分大学着 14～15 水と緑の環境人材養成: 大分市の水辺における自然観察学習 (2/28日曜日9時半～14時半)						
【時間外学習】						
【教科書】						
【参考書】						
【成績評価の方法及び評価割合】 授業・体験活動における取り組み状況 (各授業や体験活動での発言など参加態度とレポート)						
【注意事項】 学外での地域体験活動 (学外巡検, フォーラム, 合宿実習) に比重があります。						
【備考】 2/20-21合宿参加費1500円程度						

( 出典 : 平成 21 年度シラバスから抜粋 )

## 資料 1-1-3：少人数科目一覧（語学とスポーツを除く）

## 平成21年度少人数科目（語学とスポーツを除く）

（前学期）

曜日	時限	時間割コード	開講科目名	担当教員名	担当教員所属	対象学部	教室	教福	経済	工学	医学	計
月	2	A10009	思考と論理	神崎 英紀		教・経	情報教育システム室	16	13	0	0	29
月	2	A10010	アカデミックスキル(調査法)	尾澤 重知		教・経	教養教育棟32号	10	6	2	0	18
火	1	A10021	クラフト	富田 礼志		教・工	美術講義室	7	0	21	0	28
火	1	A10026	地域と財政	井田 知也	経	教・工	教養教育棟24号	5	5	13	0	23
水	2	A10058	ものづくりの世界	池崎 八生		教・経・医	金属加工実習室	3	6	0	1	10
水	2	A10061	医療人間科学	西 英久		教・経・工・医	教養教育棟21号	1	22	2	0	25
水	2	A10066	情報処理入門	本城 信光		経・工・医	教養教育棟LL教室	0	7	17	16	40
水	3	A10082	情報処理入門	本城 信光		経・工・医	教養教育棟LL教室	0	2	21	16	39
木	2	A10096	情報処理入門	本城 信光			情報基盤センター第1実習	0	2	36	0	38
木	2	A10098	表現技術	金森 由美			経第12演習室	10	5	1	0	16
木	5	A10138	情報処理入門	山下 茂			情報基盤センター第1実習	13	0	0	0	13
金	2	A10111	プロジェクト型学習入門	尾澤 重知		教・経	教養教育棟32号	5	14	2	0	21

（後学期）

曜日	時限	時間割コード	開講科目名	担当教員名	担当教員所属	対象学部	教室	教福	経済	工学	医学	計
月	2	A00013	身近な科学実験	芝原 雅彦		教・経	教養教育棟12号	16	8	0	0	24
月	2	A00014	電気の世界I	榎園 正人	工	教・経	教養教育棟23号	1	7	0	0	8
月	2	A00017	エレクトロニクスの世界I	益子 洋治	工	教・経	教養教育棟14号	5	18	0	0	23
月	2	A00020	植物細胞工学	泉 好弘		教・経	教養教育棟21号	6	14	0	0	20
火	1	A00023	機械の世界	劉 孝宏	工	教	機械製図室	26	0	0	0	26
火	1	A00026	情報処理入門	本城 信光		工	教養教育棟LL	0	0	27	0	27
火	1	A00045	化学物質と環境影響	吉岡 義正		教・工	教養教育棟14号	3	1	11	0	15
水	2	A00068	情報処理入門	本城 信光		経・工・医	情報基盤センター第1	0	0	17	1	18
水	3	A00081	情報処理入門	本城 信光		経・工	教養教育棟LL	0	3	23	1	27
木	2	A00095	情報処理入門	本城 信光		経・工	情報基盤センター第1実習	0	2	29	0	31
木	2	A00101	アートアニメーションの実践	廣瀬 剛		経・工	美術講義室	0	8	11	0	19
木	2	A00105	会計と社会	中村 美保	経	経・工	教養教育棟32号	0	16	8	0	24
木	2	A00107	物理学への招待	長屋 智之	工	経・工	教養教育棟13号	0	3	16	0	19
木	2	A10140	地域貢献活動 個から地域	倉持 香苗		経・工	教養教育棟31号	0	22	7	0	29
木	2	A10144	情報処理入門	吉岡 孝	工		情報基盤センター第3実習	0	0	23	0	23
金	2	A00131	数学の世界	川崎 道広		教・経	教養教育棟11号	5	8	1	0	14
金	2	A00134	教養としてのコンピュータ	谷野 勝敏		教・経	教養教育棟14号	7	17	0	0	24
金	2	A10141	統計学入門	甲斐 隆文	経	教・経	経済301号	2	20	0	0	22

（出典：平成21年度少人数科目一覧から抜粋）

資料 1-1-4 : 少人数科目シラバス (情報処理入門、ものづくりの世界)

情報処理入門 (Introduction to Information Processing)		授業科目名 (科目の英文名)				区分・分野・コア
						全学共通科目 自然
必修 選択	単位 2	対象 年次 1,2,3,4	学 部 経・医・工	学 期 前期	曜・限 水2	担当教員 本城 信光 内線 E-mail:
【授業のねらい】 コンピュータ利用の初心者も対象に、学生が自らの学習や研究の道具として情報手段(コンピュータ)を活用するための、基礎的な知識と技術を身につけることを目的とする。						
【具体的な到達目標】 1.コンピュータの基本的応用ソフトウェア (文書作成、データ処理、プレゼンテーション資料作成) を活用するための基礎的な知識と技術の習得 2.コンピュータに関する基本概念の理解						
【授業の内容】 1.コンピュータの概要と基本操作 (1回) マウスとキーボードの操作、タッチタイピング ファイルシステム 2.文書作成 (3回) コンピュータ内部でのデータ表現 日本語入力、編集、書式設定、表作成、図作成 文書構成ほか 3.データ処理 (7回) 表計算 (データと数値入力、セル参照、関数) グラフ作成 簡易データベース 統計計算、数値計算 4.コンピュータ・ネットワークの概要と利用 (1回) WWW情報検索ほか 5.プレゼンテーション資料作成 (6,7とあわせて2回) スライド作成、図解、スライドショー、配布資料作成ほか 6.ノイマン型コンピュータ 7.情報と社会						
課題レポートの提出を求める						
【教科書】 授業担当者がプリントを用意する						
【参考書】 必要に応じて紹介する						
課題レポート50%、平常点(受講態度、他)50%						
【注意事項】 (1) 同一授業科目および情報リテラシー I との重複は受講不可。 (2) 受講者は40名までとして調整するので、希望に当たらない場合もある。 (3) 工学部電気電子工学科電気コース所属の学生と工学部知能情報システム工学科所属の学生は受講不可。 (4) 医学部・医学科所属の学生は受講不可 (5) 経済学部(所属)にかつ教員免許を取得希望のものは、この科目を受講せず、学部が開講する「教員免許を取得するための情報処理に関する科目」を必ず受講すること。						
【備考】						

ものづくりの世界 (Introduction to Manufacturing)		授業科目名 (科目の英文名)				区分・分野・コア
						全学共通科目 自然
必修 選択	単位 2	対象 年次 1・2・3・4	学 部 教・経・医	学 期 前期	曜・限 水2	担当教員 池崎八生 内線 E-mail: hkrzaki@cc.oita-u.ac.jp
【授業のねらい】 ものづくりは本来、人間の喜びでなければならぬ。しかし、現実の社会では、大量生産とそれに引き続く安易な大量消費によって、ものづくりに関する喜びや、それを使うことの充足感など感じる余裕のない、物質文明に明け渡されていく。単行句のほうでは、ものづくりの生産現場は3Kなどと言われ、嫌われている始末である。ものをつくることの喜びや大変さを知ることが、安易な消費に拍車をかけることにもなる。 ものをつくる喜びを知るには、ものを実際につくってみること、つまり、実際に体験することが一番である。そこで、この授業では、手生上と機械加工を中心に、ものづくりを体験することで、難しさや、単調な作業を通り過ぎてこそそのものづくりの楽しさ、喜びを理解してもらおう。同時に、なぜ3kなのかなど講義に加えて実習・実験を通して体験し、ものづくりの本質を理解すること、さらに生涯にわたって役立つものを作るための基礎技術の習得を目的とする。 この授業を対象とする学生は文系を専攻し、実際にこれまで手作業で加工などしたことではないが、ものづくりに興味のある学生を対象としている。施設設備の関係で受講生は10人とする。						
【具体的な到達目標】 1. 役立つものを作るための基礎技術の習得 2. ものの形や機能がどのようにして付加されるかを思考することが出来る。 3. ものづくりの楽しさ、喜びを理解できる。 4. ものづくりの本質を理解する。 5. ものがそこに存在するということの素晴らしさや有難さが理解できる。						
【授業の内容】 主なテーマは以下の通りである。講義の後に、それぞれのテーマ別に工具や装置を使用して体験実験・実習を行う。実験・実習機械の台数により班を組むローテーションで行う。 (1) オリエンテーション及び安全教育 (2) 加工とはなにか、機械を作る機械 (3) 手仕上げに使用する工具 (4) ボール盤とその使用方法 (5) 旋盤とその使用方法 (6) ものの長さを測るA (7) ものの長さを測るB (8) ものづくりのための準備 (9) 機械と設計・製図 手仕上げによる加工の実験						
【時間外学習】 各テーマ別に設定した課題を調べておくこと。D, I, Y スタブなどで事前・事後、テーマに関係する実際の道具や工具、機械類等を調査すること。						
【教科書】 適宜必要な事項をプリントにて配布、もしくはインターネットのホームページ上に掲示する。						
【参考書】 機械実習 実教出版						
【成績評価の方法及び評価割合】 テーマ毎のレポートあるいは小テスト40%、製作作品60%						
【注意事項】 けがの防止等、安全管理上、作業靴、作業帽、帽子などを必ず着用。 材料代は実費を請求。10名を超えた時、抽選を行う。 ・教育福祉学部技術選修及び工学部は受講不可						
【備考】						

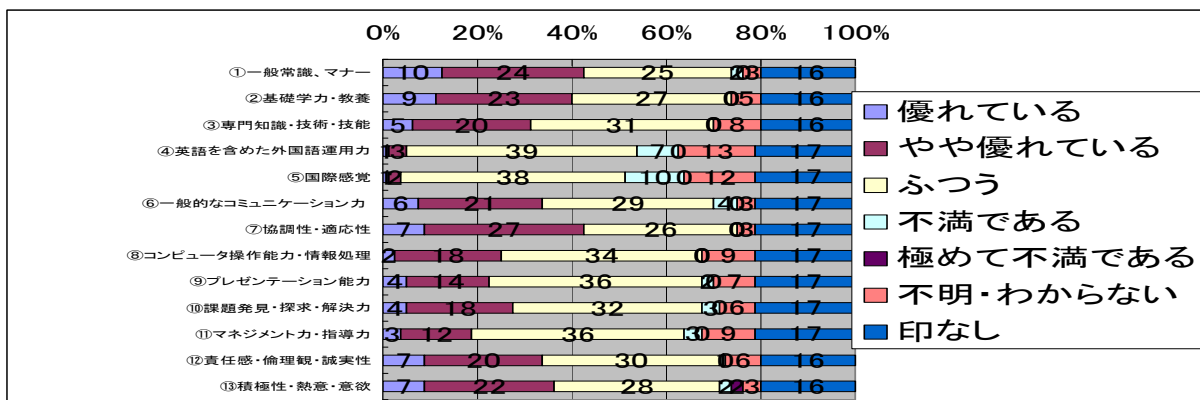
(出典：平成21年度シラバスから抜粋)

資料：1-1-5：教育成果に関するアンケート結果

【平成 22 年 2 月 20・21 日実施】

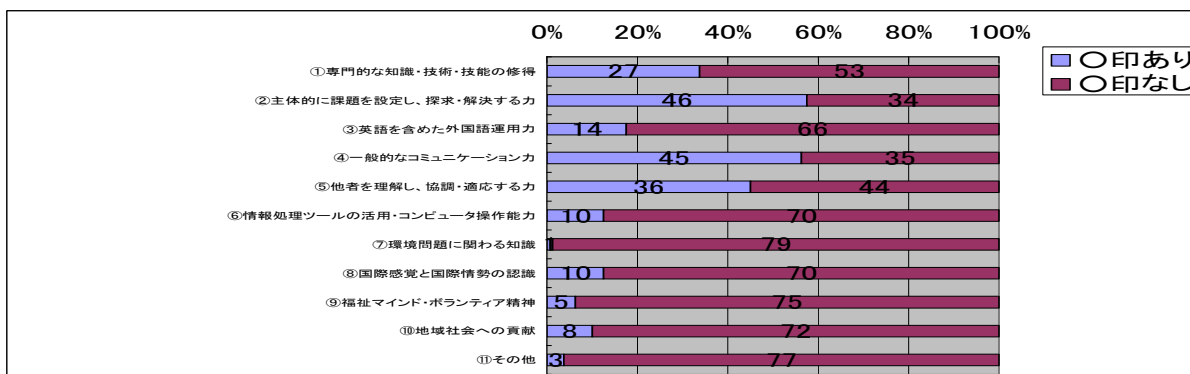
（設問） 本学の卒業生が持つ能力、傾向について、以下の項目の当てはまる番号一つに を付けてください。

	優れている	やや優れている	ふつう	不満である	極めて不満である	不明・わからない	印なし	計
①一般常識、マナー	10	24	25	03	16	0	3	80
②基礎学力・教養	9	23	27	05	16	0	5	80
③専門知識・技術・技能	5	20	31	08	16	0	8	80
④英語を含めた外国語運用力	1	3	39	7	17	0	13	80
⑤国際感覚	1	2	38	10	17	0	12	80
⑥一般的なコミュニケーション力	6	21	29	4	17	0	3	80
⑦協調性・適応性	7	27	26	03	17	0	3	80
⑧コンピュータ操作能力・情報処理	2	18	34	09	17	0	3	80
⑨プレゼンテーション能力	4	14	36	07	17	0	7	80
⑩課題発見・探求・解決力	4	18	32	10	17	0	6	80
⑪マネジメント力・指導力	3	12	36	3	17	0	9	80
⑫責任感・倫理観・誠実性	7	20	30	06	16	0	9	80
⑬積極性・熱意・意欲	7	22	28	03	16	2	3	80



（設問） 本学ないし大学教育全般において今後力を入れるべきと考えられる課題について、以下の項目の当てはまる

	○印あり	○印なし	計
①専門的な知識・技術・技能の修得	27	53	80
②主体的に課題を設定し、探求・解決する力	46	34	80
③英語を含めた外国語運用力	14	66	80
④一般的なコミュニケーション力	45	35	80
⑤他者を理解し、協調・適応する力	36	44	80
⑥情報処理ツールの活用・コンピュータ操作能力	10	70	80
⑦環境問題に関わる知識	1	79	80
⑧国際感覚と国際情勢の認識	10	70	80
⑨福祉マインド・ボランティア精神	5	75	80
⑩地域社会への貢献	8	72	80
⑪その他	3	77	80



（出典：企業アンケート集計結果（平成 22 年 2 月 20 日実施）から抜粋）

資料 1-1-6：キャリア教育推進連絡会議 会議概要

平成 21 年度 第 2 回キャリア教育推進連絡会議 会議概要	
日時	平成 22 年 3 月 24 日(水) 12:00 ~ 12:30
場所	巨野原キャンパス 教養教育棟 2F 会議室 1 挟間キャンパス 多目的会議室
出席者	大嶋 誠議長, 柳井智彦, 市原宏一, 豊田昌宏, 藤井弘也, 横井 功, 島田達生
欠席者	鴻上喜芳, 宇津宮孝一
陪席者	工藤教育支援課副課長
資料	資料 1 合同企業説明会でのアンケート集計結果について
議題	1. 合同企業説明会でのアンケート結果について（資料 1） 議長から、資料に基づきアンケート結果について報告があった。 審議の結果、アンケート結果を来年度以降のカリキュラム編成に反映させるべく全学教育機構運営会議での検討を依頼することとした。

（出典：キャリア教育推進連絡会議概要から抜粋）

## 資料 1-1-7：平成 21 年度 FD 実施状況

全学的なFD  
平成21年度

名称	開催日	参加者数	うち大学院教育課程担当者数
(大学院FD講演会)			
・長崎大学における大学院教育改革の取り組み	9月30日	32名	30名
・メンタルヘルス講演会 現代学生のメンタルヘルス—摂食障害、ひきこもりを中心に—(学部と合同)	12月11日	25名	19名
・ティーチング・ポートフォリオFD講演会・ミニワークショップ(学部と合同)	7月30日	40名	22名
(学部・大学院合同FD研修会)			
・オンライン授業公開・授業検討会	7月29日～9月30日	5名	2名
・学生教職員教育改善シンポジウム(学内合同FD研修会「きっちよむフォーラム2009」第1部)	11月25日	31名	26名
・教育課題・教育実践検討会(学内合同FD研修会「きっちよむフォーラム2009」第2部)	11月25日		
・授業公開・授業検討会	12月14日～18日	8名	8名
・WebClass利用者講習会(初心者説明会)	4月13・17・20・24日	3名	3名
・WebClass利用者のコンサルティング活動	随時	7名	7名
・ティーチング・ポートフォリオFDワークショップ	3月1日～3日	9名	2名

全学的なFD  
平成20年度

名称	開催日	参加者数	うち大学院教育課程担当者数
(大学院FD講演会)			
・大阪大学大学院における教育改革	7月24日	31名	23名
・メンタルヘルス講演会 学生とのよりよい関係を目指して(学部と合同)	11月7日	54名	35名
・FDとeラーニングに関する講演会(学部と合同)	1月30日	26名	14名
(学部・大学院合同FD研修会)			
・大分大学ティーチング・カフェ	6月17日、20日	18名	13名
・オンライン授業公開・授業検討会	10月前半	7名	2名
・先進的eラーニング研究会	11月14日	16名	8名
・学生教職員教育改善シンポジウム(学内合同FD研修会「きっちよむフォーラム2008」第1部)	11月26日	43名	36名
・教育課題・教育実践検討会(学内合同FD研修会「きっちよむフォーラム2009」第2部)	11月26日		
・授業公開・授業検討会	12月15日～19日	21名	15名
・WebClass講習会	(4月22日、10月～12月随時実施)	8名	6名

各研究科FD  
平成21年度

名称	開催日	参加者数	うち大学院教育課程担当者
教育学研究科			
・11の専攻・専修のほとんどで、年間2回～4回程度の修士論文中間発表会を実施	2月17日(理科)、2月21日(社会科)など		5～72名
経済学研究科			
・修士論文中間発表会	10月21日	50名	30名
・学位論文中間発表会(博士)	6月3日	50名	35名
・博士學位論文中間発表会(博士)	10月28日	20名	15名
・学位論文予備審査報告会(博士)	11月25日	20名	15名
医学研究科(医学専攻)			
・平成21年度大学院中間発表会	5月11日	72名	43名
工学研究科			
・山口大学・大分大学合同修論中間発表会(エネルギーシステム工学専攻)	9月18日	48名	4名
・修士論文中間発表会(知能情報工学専攻)	4月23・30日、5月7・14・21・28日、10月15・22・29日、11月5・12・19日		22名
・修士2年生(M2)の中間発表会(応用化学専攻)	7月18日	39名	13名
・修士1年生の中間発表会(応用化学専攻)	12月25日	37名	13名
福祉社会科学研究科			
・修士論文中間発表会	9月12日	5名	

各研究科FD  
平成20年度

名称	開催日	参加者数	うち大学院教育課程担当者
教育学研究科			
・修士論文構想発表会(平成20年7月23日)(学校教育専攻臨床心理学コース)	7月23日	20名	
・修士論文中間発表会	11月5日	20名	
経済学研究科			
・修士論文中間発表会	11月5日	38名	10名
医学研究科			
・大学院博士論文中間発表会(医学専攻)	5月12日	32名	
・がん看護プロフェッショナルセミナー(看護学専攻)	8月22日	多数	
工学研究科			
・山口大学・大分大学合同修論中間発表会(エネルギーシステム工学専攻)	9月19・20日	22名	3名
・大分大学・徳島大学合同大学院修士論文中間発表会	1月9・10日	18名	3名
福祉社会科学研究科			
・修士論文中間発表会	9月20日	10名	

(出典：高等教育開発センター平成20・21年度FD活動一覧から抜粋)





[アクセス・お問い合わせ](#) [大分大学](#)

[高等教育開発センター](#) > [ファカルティディベロップメント](#) > [ティーチング・ポートフォリオ講演会](#)

### 「ティーチング・ポートフォリオFD講演会・ワークショップ」概要報告

文責：牧野治敏(高等教育開発センター)

高等教育開発センターでは、平成21年7月30日(木)13時10分より、学部・大学院合同FDの一環として、「ティーチング・ポートフォリオFD講演会・ミニワークショップ」を開催しました。講師として大学評価・学位授与機構 准教授の栗田加世子先生と大阪府立工業高等専門学校 准教授の北野健一先生をお迎えして、且野原キャンパス教養教育棟第32号 教室をメイン会場として実施し、挟間キャンパス211号教室へは遠隔授業システムで同時配信しました。

また、地域連携研究コンソーシアム大分の協賛により、大分工業高等専門学校、別府大学、立命館アジア太平洋大学、大分県立看護科学大学、大分県立芸術文化短期大学、本学リサーチファクトリーへの配信を試みました。

講演会に先立ち、本学教育担当理事嘉目教授による挨拶と、司会者からの講師紹介が行われました。



講演1 「ティーチング・ポートフォリオとは」  
講師 栗田佳代子(大学評価・学位授与機構 准教授)

栗田先生の講演では、高等教育の現状を踏まえたティーチング・ポートフォリオ(以下、「TP」)の導入の意義・特徴・構成要素等が解説されました。また、TPの有効性が、高等教育の説明責任と教育の質の保証の見地から、カナダ、アメリカの現状の紹介 とともに説明されました。TPの作成方法とともに、TPとは自らの授業実践の事実集積記録とそれに対する自己省察の文章から構成されるものであり、教員自身の授業改善だけでなく、教員組織集団での教育資源の共有、教員の教育評価にも有効との指摘もありました。

講演2 「事例報告 ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップを開催して」  
講師 北野健一(大阪府立高専 准教授)

次に、北野先生から大阪府立高専でTP作成ワークショップを開催した経緯とTP作成による教育改善の事例が報告されました。先生ご自身がTPの作成を始めた経緯、高専での普及の呼びかけ・ワークショップの開催とその効果、高専独自の評価項目の必要性等について具体的に報告されました。特に、ワークショップの開催により「メンターの立場で参加したことで多くのことが学べた」との感想や、「TPは教育者にとつての『人間ドック』」との示唆は印象的でした。

(出典：高等教育開発センターホームページから抜粋)



資料 1-1-9：入試区分別入学者成績追跡調査報告

<p style="text-align: center;">2009 年度 入試区分別入学者成績追跡調査報告</p> <p>入学企画支援センターは、過去5年間にさかのぼって入試区分別に入学者の成績追跡を行った。その調査結果を学部毎に、&lt;要点&gt;&lt;分析&gt;&lt;提言&gt;として纏めた。&lt;要点&gt;はグラフが示す注目すべき点を書き出している。&lt;分析&gt;は上記の注目すべき点が如何なる原因によって発生したかを述べている。&lt;提言&gt;では、グラフの読み取りに加え、学外者の意見、本学入試制度の問題点、他大学の制度等を参考にして提言を行なってみた。各学部においてはそれらの提言に関し積極的な検討を頂ければ幸いである。</p> <p style="text-align: right;">大分大学 入学企画支援センター</p>	<p>教育福祉科学部</p> <p>&lt;要点&gt;</p> <p>入試区分別（一般入試前期日程、一般入試後期日程、推薦入試、社会人特別入試）に分類し、入学後の学内成績を学期毎に追った。その結果は別表の通りであるが、2005年入学者では、社会人特別入試を除く3区分は、入学直後の1年次前期成績では同じようなレベルにある。しかしながら、推薦・前期日程での入学者が1年次後期試験成績で幾分かの上を見せるのに対し、後期日程入学者の成績は、入学直後から下降し始める。2年次前期試験では、推薦・前期日程入学者と後期日程入学者のGPA差が約0.3に拡大している。そしてその差は卒業直近になってわずかながら縮小するのみで、1年次から2年次前半で開いた差が卒業までに埋まることはない。</p> <p>2006年及び2007年入学者に関しては後期日程からの入学者が4年間に亘って前期日程や推薦入試入学者より上位にある。</p> <p>2008年入学者では入学時の成績では大きな差異は無いが、一般後期入学者が他の入試区分入学者より低迷気味である。</p> <p>&lt;分析&gt;</p> <p>① 一般的に推薦入試入学者は入学後の学習力に問題があると見られがちであるが、1年次前期試験結果を見る限り、推薦選抜からの入学者が学力的に低いとは言えない。これは多分に推薦選抜入学者が他の選抜入学者より高いモチベーションを持って入学していることから、仮に高校時代に多少低い学力であったとしても、入学後の努力で十分に本学での教育に対応できているということを証明するものであろう。高校進路担当に国立大学推薦入試を志願する学生のステレオタイプを伺ったところ、普通科進学系高校では「真面目でコツコツ型」「もっと上位校にも挑戦出来得る学力を持っている場合が多い」との返事が返ってきた。</p> <p>② 逆に後期日程入学者は、第一希望でない本学へ入学したという心理に困って、学習への意欲が低下し、やる気のない1・2年次を逃していると言える。そのモチベーションの低さも3年次頃には改善されるよう成績も多少向上を見せる。しかし、前期日程や推薦入試での入学者と比べて後期日程入学者はメンタル面から本学での就学に問題を抱えていると思える。後期日程入学者の多くが、第2・第3志望の大学へ入学したというネガティブな思いを引きずっている場合が多いのではないだろうか。</p> <p>③ 2005年入学者グラフ下にある2009年前期試験を含めたグラフは、入学から5年目に入った学生の成績を表しているが、ここでも、推薦入試での入学者より、一般選抜での入学者がより深刻な成績不振を抱えていることがわかる。</p> <p>④ 後期日程入学者でも高い志願倍率の年度に入学した学生は、4年間を通して高い成績を維持している。2006年入試では志願者が1015名で志願倍率が11.9倍と極め</p>
--	---

( 出典：2009 年度入試区分別入学者成績追跡調査報告から抜粋 )

資料 1-1-10：募集定員の見直し

平成24年度以降の推薦入試の見直し

(1) 工学部福祉環境工学科・建築コースA推薦の募集人員を0とする(A推薦を廃止する)。

○工学部福祉環境工学科・建築コース

平成23年度			平成24年度		
推薦入試	A 推薦	3	推薦入試	A 推薦	0
	B 推薦	5		B 推薦	5
前期日程		32	前期日程		35
後期日程		10	後期日程		10
合計		50	合計		50

A 推薦の募集人員を0とする理由：

工学部福祉環境工学科・建築コースでは、これまでの推薦入試の実績から、A 推薦枠の募集を止め、推薦入試はB 推薦枠に一本化することを検討してきた。今回、少なくとも建築コースにおいては、A 推薦枠に出席する志願者の選抜は一般入試による選抜が望ましいとの最終判断に至り、A 推薦枠の募集を止めることとした。

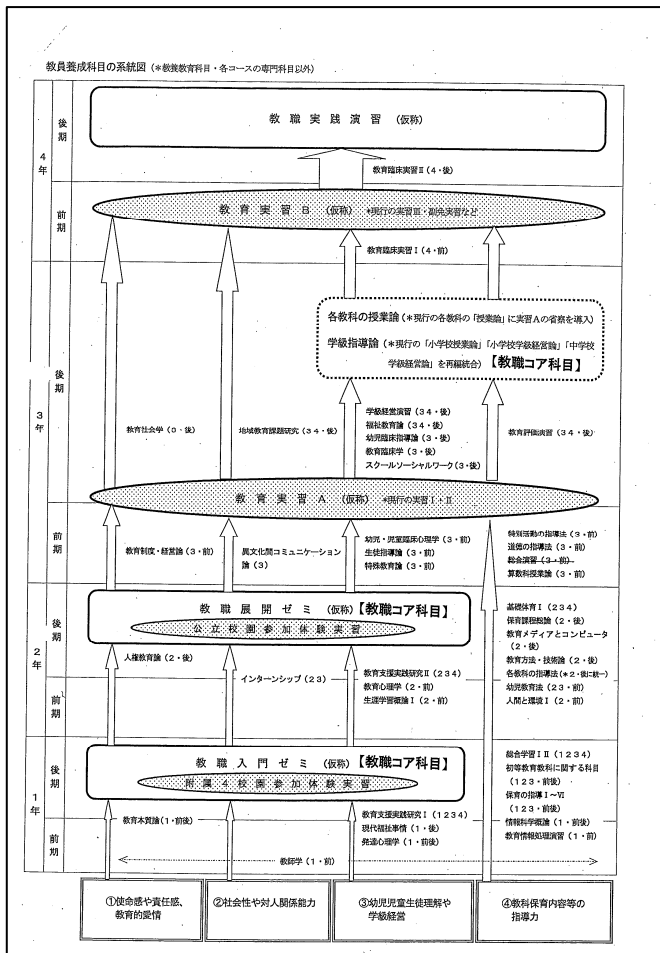
(2) 検査項目としての「小論文Ⅰ」と「小論文Ⅱ」を廃止し、それに代わるものとして「基礎能力試験」を新設する。

「小論文Ⅰ」と「小論文Ⅱ」を廃止し、「基礎能力試験」を新設する理由：

- 従来の「小論文Ⅰ」の内容では、受験者の能力を評価することが難しいため。
- また、従来の「小論文Ⅱ」のような基礎学力を調べる試験がより重要と考えられ、検査項目名としても「基礎能力試験」の方が、その内容をより反映し受験者にも理解しやすいと考えられるため。
- さらに、検査項目を統合する事により、これまで2日に分けて行っていた推薦入試の1日実施が出来る可能性もあり、その場合、結果的に受験者への負荷が軽減されるため。

( 出典：工学部入試委員会資料から抜粋 )

資料 1-1-11：教育課程の見直し



授業科目名						
上級簿記 (Bookkeeping)						
必修・選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	4	3年次以上	経	前期	水曜 3・4限	(非)講師 山本直也 内藤 E-mail: n.yamamoto@o-hara.ac.jp
【授業のねらい】						
本講義では、税理士試験科目である簿記論（複式簿記の原理、その記帳・計算及び帳簿組織、商業簿記のほか工業簿記を含む。ただし、原価計算を除く。）の知識の習得を目標にしています。税理士試験科目の簿記論合格を目指す方は是非受講してください。						
【具体的な到達目標】						
税理士試験科目である簿記論の知識の習得を目標に講義をします。上級簿記の講義だけでは、簿記論の全範囲は把握できませんが、特に重要性の高い簿記一部、現金預金、固定資産、引当金、有価証券、商品売買の各項目の基本部分の習得を目標としています。						
【授業の内容】						
1. 受講ガイダンス、簿記一巡1 2. 簿記一部Ⅱ、現金預金1 3. 現金預金Ⅱ、総合問題1 4. 現金預金Ⅲ、債権債務 5. 固定資産1 6. 固定資産Ⅱ 7. 第1回中間テスト 8. 引当金1 9. 引当金Ⅱ、有価証券1 10. 有価証券Ⅱ 11. 商品売買1、総合問題 12. 商品売買Ⅱ 13. 商品売買Ⅲ、総合問題 14. 第2回中間テスト 15. 定期試験						
【時間外学習】						
講義毎に課題を課します。						
【教科書】						
2回目の講義にて販売します。 税理士受験対策講座 簿記論一般テキスト・チェック						
【参考書】						
特にありません。						
【成績評価方法及び評価の割合】						
定期試験（70%）、中間テスト（20%）、課題等（10%）により総合的に評価する。						
【注意事項】						
日商簿記検定2級取得者しか履修できません。1回目の講義で合格證書のコピーを回収しますので必ず持ってきて下さい。 電卓、赤ペン、ラインマーカーを持参すること。 毎回の講義後に必ず復習すること。						
【備考】						
特にありません。						

授業科目	必修・選択別	単位数	対象学年	学期	曜日	担当教員
数学基礎A	選択	2	1	前期	金3	甲斐隆文
【授業のねらい】						
経済学に現れる様々な現象はその多くが数理的に説明出来るモデルになっている。基礎数学Aでは高等学校で履修してきた数学の復習から始め、経済学・経営学を学ぶために必要な数学的な処理能力として、主に微分積分学の基本的な知識と計算力処理能力を深める。						
【具体的な到達目標】						
1. 高校数学全般から文系の学生の必須となる基本的な分野を復習する。 2. 数学Ⅱで学んだ微分法が、高次関数だけでなく、1変数のいろいろな関数にも適用できることを理解し、経済学・経営学の数学的なアプローチに必要な微分法に対する基本的な計算処理能力を修得する。 3. 専門的な経済学・経営学の数学的なモデルとなる多変数関数の微分法に対する基礎的な計算処理能力を2変数の場合について修得する。						
【授業内容】						
1. 高校数学の復習（1） 2. 高校数学の復習（2） 3. 高校数学の復習（3） 4. 高校数学の復習（4） 5. 関数の極限・関数の連続性 6. 微分法（1）（積・分数関数の導関数） 7. 微分法（2）（合成関数の導関数） 8. 微分法（3）（いろいろな関数の導関数） 9. 微分法（4）（いろいろな関数の導関数） 10. 微分法（5）（接線・法線・関数値の変化） 11. 微分法（6）（グラフ・最大・最小） 12. 微分法（7）（方程式・不等式への応用） 13. 偏微分・全微分 14. 多変数関数の極大・極小 15. 試験						
【時間外学習】						
復習、予習に必要な事項は課題として授業中に指示しますが、数学に強くなるための王道はありません。日頃から納得するまで考え、自分の力で解くことが大切です。						
【教科書】						
特定の教科書は使用しない。毎回資料を配布します。						
【参考書】						
中井 達著『経済数学』微積分編（ミネルヴァ書房） E.ドゥワリング著『入門 例題で学ぶ 経済数学』上下（シーエービー出版） 浅利一郎他『はじめよう経済数学』（日本評論社）						
【成績評価方法および評価の割合】						
平常点（30%）、レポート・定期試験（70%）で総合評価します。						
【注意事項】						
数学は毎回の授業の積み重ねです。欠席をすれば次回は分からなくなります。授業は毎回出席し、分からないところは積極的に質問に来てください。						
【備考】						
この授業は、AO入試（簿記資格）および推薦入試（商業科・総合学科）での入学者を対象とする授業です。該当者は受講してください。						



平成21年 4月15日 制定  
平成21年12月16日 改定  
工学部教務委員会

技術者教育プログラム「建築プログラム」（福祉環境工学科建築コース）

この要項は、工学部履修規程第5条の4に基づき、技術者教育プログラム「建築プログラム」の履修に關して必要な事項を定める。

- 履修者  
建築プログラムを履修できる者は、福祉環境工学科建築コース（以下、「本コース」という。）の平成18年度以降に入学した者とする。
- 履修登録  
建築プログラムへの履修登録は、入学時に自動的に行われる。
- 4年次進級要件  
建築プログラムにおいて、4年次へ進級するためには、履修者は、次の各項のすべてを満たさなければならない。  
(1) 本コースの卒業研究着手要件を満たしていること。  
(2) 累積成績指標値 GPA (Grade Point Average) が、2.8以上であること。  
なお、ここでの GPA は、大分大学工学部履修規定に示されたものを用いる。
- 修了要件  
建築プログラムを修了するためには、履修者は、本コースの卒業要件を満たさなければならない。

（出典：教員養成科目の系統図，シラパス「上級簿記」，シラパス「数学基礎A」，JABEE 対応プログラムから抜粋）

<p>大分大学医学部附属病院 かけはし 3</p> <p>平成22年4月1日 第41号</p> <p style="text-align: center;"><b>教授に就任して</b></p> <p style="text-align: center;">地域医療学センター(外科分野) 教授 白石 憲男</p> 	<p>このたび、平成22年2月1日付をもちまして地域医療学センター教授に就任いたしました。大分の外科系の地域医療の活性化と地域医療学の構築に尽力したいと考えています。</p> <p>近年、医療の高度な専門性や業務負荷の増大などに伴い、地域の医療に従事している医師に過重な労働が強いられるようになってきました。さらに新しい研修医制度によって医師供給のバランスが乱れ、地域医療に従事する医師の不足やその偏在化が表面化するようになっていまいす。このような事態に対し、行政や医師会の方々と協力しながら、将来にわたり地域住民の方々に最善の医療を受けていただく環境づくりを行ってまいりたいと思います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域医療システムの再構築 医師や診療科の偏在化を防ぎ、住民の皆様ニーズに沿うよう、中核病院や臨床研修病院を中心とした機能分化や地域医療機関のネットワークづくりを行い、医師の供給体制の効率化に精進したいと思います。</li> <li>2. 地域医療を担う人材の育成 医療の高度化によって進められてきた臓器別の縦割り医療ではなく、全人的立場から診療を行う人材が地域医療には求められます。地域医療への責務と情熱を持つ人材を育成したいと思います。</li> <li>3. 地域医療の質の向上 現在、地域医療に従事している医師やコメディカルの方々のキャリアパス支援や診療支援を行う一方、職場環境の整備や改善を支援したいと思えます。さらに、地域住民の方々に医学について興味を持っていただくためのセミナーや「患者の会」などの支援活動を行いたいと思えます。</li> </ol> <p>地域医療は、地域の住民の方々にとって、かけがえのない財産の一つです。その財産を守り育てるのは、地域の住民の方々や行政や医師会、そして医師を育成し供給する大学の責務でもあります。大分県が将来にわたり地域医療のモデル県となるよう、外科系立場から尽力したいと思えます。</p> <p>どうぞ、ご支援・ご難儀のほど、よろしくお願い申し上げます。</p>
<p>大分大学医学部附属病院 かけはし 2</p> <p>平成22年4月1日 第41号</p> <p style="text-align: center;"><b>教授に就任して</b></p> <p style="text-align: center;">地域医療学センター(内科分野) 教授 宮崎 英士</p> 	<p>平成22年2月1日より、新たに開設された大分大学医学部附属地域医療学センター(内科分野)を担当することになりました。一言御挨拶を申し上げます。</p> <p>地域医療学センター(内科分野)が取り組む課題は大きく分けて以下の三つです。まず第1に大分県で研修あるいは勤務する医師を支援し、地域医療の確保に繋げることです。小児科や産婦人科と同様に、実は地域の拠点病院における内科医不足が深刻化してきています。そこで、どの地区で何科の医師がどれだけ不足しているかを現状把握し、枠組みを取り外した医師の配置あるいは様々な診療支援により地域で働く医師の負担を緩和し、またキャリアアップを支援することで、やる気に満ちた医師が地域住民の皆さんの診療に取り組みるようにサポートしていきたいと思えます。</p> <p>2番目には、総合診療を行うことのできる医師を育成することです。高度先進医療機関では医療の細分化が進み、人から病氣、臓器、そして細胞へと目が向けられ、人を診るといふ視点が必要になっていくと指摘があります。当センターの最も重要な使命として、専門臓器にこだわらず患者さんの健康問題すべて、そして生活の質にも注目しながら、一人ひとりに寄り添って支援していく医療活動、換言すれば保健・医療・福祉の輪の中で医療が行なえる医師を育成するように努めます。</p> <p>3番目は、地域における研究のネットワークを構築することです。わが国では急速に高齢化が進み、急性疾患から慢性疾患へと疾病構造の変化がもたらされ、「病気を治す」ことから「健康を増進する」、「病気を予防・管理する」ことへと診療の主軸の転換を求められています。地域における疾病構造や健康問題等に関する研究は地域医療に還元できるとともに、地域で働く医師のモチベーションの向上にも寄与することになると思えます。</p> <p>私は、由布市庄内町に生まれ育ち、大分医科大学を第一期生として卒業しました。大分県、そして本学に育てられた恩返しとして、大分の地域医療を担う人材の育成、地域医療の向上のために努力したいと思えますので、どうか宜しくお願い致します。</p>

(出典：附属病院広報誌「かけはし」41号から抜粋)

資料 1-1-12：教育課程の編成（学部・大学院の接続）

大学院講義の学部生受講について

1) 提案理由

1. 法人評価において改善を要する点とされた「大学院教育との接続を考えた教育課程を編成し」に対して、経済学部として対応するため。

「大学院教育との接続を考えた教育課程を編成し、進学希望者に対して適切な指導を行う。」に係る状況

工学部は大学院教育との接続として早期卒業制度を設け、経済学部では修士（博士前期）課程に学部推薦制度を設けて、成績優秀者に対する大学院進学意欲を向上させる等、進学希望者に対し、適切な指導を行った。（資料1-1-2：経済学研究科推薦制 P3）

○ 中期計画「大学院教育との接続を考えた教育課程を編成し、進学希望者に対して適切な指導を行う」について、早期卒業制度や修士課程への学部推薦制度等が、「大学院教育との接続を考えた教育課程の編成」に該当しているとはいえないことから、改善することが望まれる。

2. 大学院への進学予定者に対しては進学前の事前準備としての教育の場を確保し、進学希望者に対しては、大学院での研究の実際を体験させることで、進学意欲をより深化・具体化させる。

2) 制度の概要

1. 大学院講義科目の一部を学部生に学部専門科目として履修を認める。
2. 対象となる授業科目は、当該年度に大学院生が受講する科目の中から大学院委員会が定める。
3. 大学院進学を希望できる学年として3年次後期以上を対象とする。
4. 学期25単位の例外とするが、学習成果が有効なものとなるように学期当たり2単位までの履修とする。

授業科目名	必修 選択	単 位	学 期 履 修	担当教員名（所属）
大学院接続講義	選択	2		
<p>【授業のねらい】 大学院への進学予定者に対しては進学前の事前準備としての教育の場を確保し、進学希望者に対しては、大学院での研究の実際を体験させることで、進学意欲をより深化・具体化させる。</p> <p>【具体的な到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学院講義を大学院生と共に受講することを通じて修士課程での研究方法・スタイルを知る。</li> <li>2. 修士課程進学を予定している学部生に大学院での研究の準備を進めさせる。</li> <li>3. 修士課程進学を希望している学生には、大学院の講義と具体的に学ぶ大学院生の姿を見せることで進学への動機付けを強化を図る。</li> </ol> <p>【授業の内容】 大学院講義を大学院生と共に受講することで、修士課程での研究方法・スタイルについての理解を深めていきます。同時に、大学院講義における受講生としての課題を、大学院生の支援も得ながら果たしていきまします。同時に、教員の指導と大学院生の支拂を得ながら、大学院を展望した学士課程での学習、卒業論文や専門演習での課題などの学習を深化させます。</p> <p>【成績評価の方法及び評価割合】 授業における報告や発表、発言内容とレポート等の学習成果のまとめ</p> <p>【注意事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学院進学を希望できる学年として3年次後期以上を対象とする。</li> <li>2. 学習成果が有効なものとなるように、学期当たり2単位までの履修を認める。</li> </ol>				

大分市子ども教育相談センター  
平成21年度第2回訪問相談員連絡会の【ご報告】

大分大学にて、7月3日(金)に行われた連絡会のご報告をします！当日は15人+所長&職員が参加しました（講義などの関係で都合の合わない方も、ごんないわね）。1時間半、以下の流れで進行了しました。

この3人です！

1. メンタルフレンド経験者に聞きたいこと調べ
2. メンタルフレンドづくりく [進行：安藤真穂さん&三橋奈津子さん&松本梨かさん]  
→ メンタルフレンドづくりくとは、手作りすごろくです。  
5色のマス目に色々なお家をつけて、止まった所の指示にしたがって遊びます。

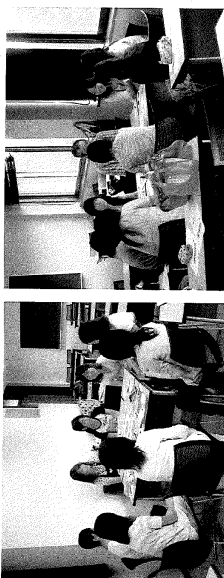
4色の説明は  
こちら →

深いの1色として...  
今回はMF経験者にききたいことを質問できるマス目も用意しました。

3. 一ノ瀬所長からのメッセージ&締結
4. アンケート

1. メンタルフレンド経験者に聞きたいこと調べ = メンタルフレンドづくりくで使うための「メンタルフレンド経験者に教えてもらいたいこと」はありますか」とお尋ねしました。挙手して出てもらったのはお互い緊張するので(笑)、一枚のカードにひとつずつ質問を書いてもらいました。

2. メンタルフレンドづくりく  
2つのグループに分かれました。フレンドリーすごろくをしているところを写真に写しました。



みなさんの感想を拝見しますと、「アウトホームな感じがして楽しかったです。初対面の人とも距離感が近くなった感じがします」、「最初はどうか不安だったけど、参加者の意外な一面を知ることができて楽しかったです」、「他の人とも交流ができた」と思いました」というような、「交流が築けた」という感想が多くありました。また、メンタルフレンド経験者の話を聴けたこと、1担当している子によって様々な活動があるんだなと驚きました、「知りたかったことや心配していたことがあったけど、同じ気持ちをもっている人がいることがわかって安心しました。もっと話を聴いてみたかったです」という感想がありました。これらの感想を次回以降に活かしていきたいです。

3. 一ノ瀬所長からのメッセージ&締結  
「メンタルフレンド活動も、何をしても、誰かとお繋がりませんか？」という言葉が贈られました。今回参加が難しかった方も、当然、皆お仲間です！皆でやっとうこう！」という言葉が贈られました。今回参加が難しかった方も、当然、皆お仲間です！

○次回以降の連絡会は、8/31(月)13:30~15:00 [大分大学]、9/28(日)9:30~11:00 [当センター]を予定。詳細は後日！

(出典：メンタルフレンド派遣事業，シラバス「大学院接続授業」から抜粋)



知の創造プロジェクト(RCP) 平成20年10月9日

## 知の創造プロジェクト「JAVA講習会」開催案内

知の創造プロジェクトでは9月30日のエクセル基礎講座に続き、セミナー第2弾として「JAVA講習会」を企画しました。学料の先輩たちが分かりやすく**JAVA 言語とその応用**について紹介してくれます。是非積極的に参加してください。

**講座概要**  
 JAVA環境のインストール・JAVAの基礎からJAVAアプリケーションの構築までの技術の習得

**実施日** 平成20年11月8日(土)、9日(日)、14日(土)、15日(日)

**講座時間** 9:00~16:30 (途中休憩あり)

**講座場所** 合同棟6Fハードウェア実験室(予定)

**対象** 知能情報システム工学科・専攻の学生(学部生・院生)  
 Java初心者を対象とします。

**受講人数** 20名まで


**使用教材** 「EclipseではじめるJAVAプログラミング入門 Eclipse3.3対応ver」(秀和システム)

**担当講師** 知能情報システム工学科・専攻のM2、M1、4年生の有志  
 (兒玉清幸、塚本賢治、山尾真二、安部祐樹、竹田裕一、井上颯雄)

**参加費** 無料

**参加申込** 越智義道(合同棟6F) ochi@sis.oita-u.ac.jp まで参加希望を連絡してください。

**講習概要** 知の創造プロジェクト(RCP)のホームページ (<http://www.csis.oita-u.ac.jp/RCP/>) に詳細な内容を掲載しています。



2010/06/12 17:27

## 知の創造プロジェクト

Project on Intellectual Creation and Practices

TOP 概要 実施プロジェクト セミナー 講演会 参加者の声 お問い合わせ

**知の創造プロジェクトとは**  
 知能情報システム工学科の学生がIT技術に関わる業界の企業プロジェクトに参加することで、これまで学内で学んでいた知識や技術を生かし、実践力を高めるためのプロジェクトです。

**参加企業中のプロジェクト**

下記のJOBについて募集を開始しました。

- 【大分大学図書館 学術情報リポジトリの改修】(8月3日募集開始)
- 【専務業務効率化のためのシステム構築】(8月3日募集開始)

下記のJOBについて募集を近く開始します。

平成21年度のJOB候補(8月3日現在)

- 大分大学図書館 学術情報リポジトリの改修(募集中)
- 専務業務効率化のためのシステム構築(募集中)
- 九州情報通信推進協議会関連のJOBを計画中です
- 大分県、IT推進部門関連のJOBを計画中です

**募集要項**

2009年

9月3日(月) 知の創造プロジェクト・学生子データベース作成のためのWebClassアンケートを実施します(締め切り8/31)  
 (詳細はこちら)

9月15日(金) マリア教育研修会9月9日(研修会案内)

9月19日(金) 11月分学費納付会9月16日(納付会案内)

2月13日(金) オブジェクト指向設計セミナー3月5日(事業開始)

2008年

12月11日(火) システム開発工程マネジメント講習会12月23日(事業開始)

11月4日(火) Java講習会11月8-9-15-16日(事業開始)

10月31日(金) 前期に終了したプロジェクトの終了証授与式が行われました。  
 9月8日(木) 【大分大学学術情報リポジトリ開発インターフェースシステムの開発】プロジェクトへの参加募集を開始しました。

10月09日(木) Java講習会10月16日(納付会案内)

10月09日(木) 知の創造プロジェクト学生アンケートを実施します(締め切り10/31)。(詳細はこちら)

8月28日(木) 専務業務効率化(7/30の内容詳細を提示しました。  
 8月29日(金) 専務業務効率化(7/30の内容詳細を提示しました。  
 8月08日(金) 専務業務効率化(7/30の内容詳細を提示しました。  
 ページに掲載しました。知の創造プロジェクトのホームページに掲載されています。

8月07日(木) 10月後半~11月上旬学費・JASSO講習会(会費後払)

8月07日(木) 専務募集、Excel2003基礎講座(9月30日(火))

8月07日(木) 知の創造プロジェクトのWebサイトオープンしました。

**セミナー・講演会情報**

2009年

3月27日(金) 講演会「ソフトウェア産業活性化プラン」(終了)

3月9日(日) メディア教育研修会(終了)

3月6日(金) 講演会「大分でもオープンソースソフトウェアやっています」(終了)

3月5日(木)~8日(金) オブジェクト指向設計セミナー(終了)

2008年

12月23日(火) システム開発工程マネジメントセミナー(終了)

11月30日(日) Java講習会11月8-9-15-16日(日) Java講習会(終了)

9月30日(火) Excel2003基礎講座(終了)

9月19日(金) 講演会「先端技術者として」(終了)

9月14日(金) 講演会「システムエンジニアとして長期活躍する秘訣」(終了)

9月10日(月)~14日(木) CSS入門セミナー(終了)

9月10日(月)~14日(木) UML入門セミナー(終了)

1月12日(土)~15日(火) Javaアプリケーション開発セミナー(終了)

〒870-5192 大分県大分市野原町1-1 大分大学 工学部 知能情報システム工学科 知の創造プロジェクト

http://www.csis.oita-u.ac.jp/PICP/index.html



THE YOMIURI SHIMBUN

2010年(平成22年) 5月7日 金曜日

発行所 読売新聞西部本社 〒810-8581 福岡市中央区赤坂1-16-5

夕刊 読売新聞

「以前は大学生の不登校なんて考えられなかった」  
大分大幹部がつぶやいた一言が気になった。

大分大は2008年10月、人間関係や学業の悩みから、不登校になりそうな学生を積極的に支援する相談室「ぴあROOM」写真IIを設置した。

この事業は、大学側が「欠席が多い」「単位が足りない」といった学生の情報を積極的に収集し、臨床心理士らが本人の下宿先を訪問したり、家族面談をしたりして、自立を支援するのが特徴だ。

担当の藤田長太郎・保健管理センター教授によると、相談内容は「何をしたいのかわからない」「友達がつくれない」「履修科目をどう選択したら良いのかわからない」などさまざま。相談室内には、悩みを持つ学生用に間仕切りした簡易個室も確保している。

取材に行くまで、「大学が行う事業なのか」と疑問を持っていた。学内でも同じ意見があったという。しかし、実績を見ると、昨年度は約2000件の利用があり、家族からの相談なども140件に上っていた。過剰に見えたサービスには確実な需要があった。

目に見える効果も出た。2007年度には全学部生の3.5%を占めた休学率は昨年度2.7%に、退学率も2%から1.3%に減少した。今では文部科学省や他大学からの視察も相次いでいる。

「自分の問題も解決できない」と指摘してしまうのは簡単だ。しかし、2000件の利用実績には、周囲には分からない今の大学生の心労がうかがえる。はた目には過保護に見えても、これから羽ばたく人を支える優しい手がある。

(松下さ之)

手厚い支援 ● 余聞余話



大分合同新聞(朝刊) 2010年(平成22年)5月5日 水曜日

学生たちが集う「ぴあROOM」のフリースペース=4月26日、大分大学巨野原キャンパス

不登校の「黄信号時点」で面談、訪問

学生への悩み相談や助言  
大分大「ぴあROOM」

大学はこれまで、相談室をの学生が訪れている。授業への出席や修得単位が設けて学生の相談に応じてき、授業への出席や修得単位がたが、自ら訪れない場合は支、著しく少ない学生について、援の網から漏れ、不登校にな、早い段階で指導教員らが面、退学してしまいうケースが、理士、社会福祉士ら計7人で多かつたという。「二歩踏み、構成する支援チームにつな、込んだサポート」と2000ぐ。チームは「ぴあROOM」で8年10月、学生本館の一角に、面談したり、来るのが難しい「ぴあROOM」をオープン。平、学生には家庭訪問をして対、日午前10時~午後6時にスタ、応。家族とも面談している。ツフが常駐、1日平均十数人「勉強が分からない」という学

大学はこれまで、相談室をの学生が訪れている。授業への出席や修得単位が設けて学生の相談に応じてき、授業への出席や修得単位がたが、自ら訪れない場合は支、著しく少ない学生について、援の網から漏れ、不登校にな、早い段階で指導教員らが面、退学してしまいうケースが、理士、社会福祉士ら計7人で多かつたという。「二歩踏み、構成する支援チームにつな、込んだサポート」と2000ぐ。チームは「ぴあROOM」で8年10月、学生本館の一角に、面談したり、来るのが難しい「ぴあROOM」をオープン。平、学生には家庭訪問をして対、日午前10時~午後6時にスタ、応。家族とも面談している。ツフが常駐、1日平均十数人「勉強が分からない」という学

生には、学習アドバイザーを務める元高校教員らが支援する。

オープンした08年10月、09年3月は延べ660人が相談、延べ236人がフリースペースを利用したが、09年4月~今年3月は2094人が相談、フリースペース利用者も1830人上った。これまでになくとも5人が復学、10人が出席状況や単位修得に改善が見られた。新たな進路を自分で決め、就職するなどした学生も4人いた。大学は今年2月、狭間キャンパスにも「ぴあROOM」を開設した。

支援チーム長で精神科医の藤田長太郎教授(右)は「従来ならドロップアウトしていた学生が、大学に来られるようになった。今後も学生への支援に努めたい」と話している。

「踏み込む支援」存在感

勉強や人間関係で悩むを抱える学生を支援しようと、大分大学が巨野原キャンパスに開設した「ぴあROOM(ルーム)」の利用が伸びている。相談に応じて、学習のアドバイスをしているほか、フリースペースを設けて学生の居場所づくりを進める。引きこもりがちな学生には家庭訪問をして悩みを聞くなど、待ちの姿勢ではなく、積極的に外に出ていく「アウトリーチ型支援」を展開、全国でも先駆的な取り組みとして注目されている。

「ぴあROOM」の支援手1  
△最を務める藤田長太郎教授

利用者増、5人復学





資料 1-1-14 : ミニ FD の内容

国立大学法人 大分大学  
学生支援GP ミニFD配付資料

**まとめ**  
—アウトリーチ型支援を実施して—

- 保健管理センターに相談に来ていた学生が「びあROOM」に行き始めて安定したり、ソーシャルワーカーの活動領域が広がり、家族・教職員との調整がはかどるなど相乗効果がみられるようになった
- 潜在的なニーズのある学生に対する総合的支援の窓口ができて、不登校でない学生も相談に来るなど学生支援の幅が広がっている
- 青年期の発達心理等について教職員の理解が深まれば、不登校学生だけでなく、現代の多様な学生の成長・発達を見通した教育が可能となる

16

**最後に：お願いしたいこと**

- 不登校がちな学生との面接やご指導はこれまで通りお願いします
- そのうえで是非「びあROOM」を活用されてください。学生紹介の窓口は保健管理センター・藤田です  
(内線：7476)
- 大分大学HPのトップページに「びあROOM」のバーナがあります。必要に応じて保護者にもHPのご紹介をお願いします
- 学習サポートのみ必要な場合は直接「びあROOM」に行くように学生に指示されてください

17

国立大学法人 大分大学  
学生支援GP ミニFD配付資料(2巡目)

**6. 学生生活サイクルと不登校**  
表1 学生生活サイクルの特徴 (園田, 2001を一部改編)

	入学期 (1年生)	中間期 (2~3年生)	卒業期 (4年生)	大学院学生期
学生の課題	・これまでの生活(対人関係)からの分離 ・新しい生活の開始 ・学生生活への移行	・学生生活の展開 ・自分らしさの探究 ・中だるみ ・現実生活と内面の統合	・学生生活の終了 ・社会生活への移行 ・青年期期の節目 ・現実生活の課題を通して内面を整理	・研究者・技術者としての自己形成
心理学的特徴	・自由の中での自己決定 ・高揚と落ち込み	・曖昧さの中での深まり ・親密な関係	・もう一つの卒業論文・将来への準備	・職業人への移行 ・自信と不安
不登校学生が懸念した主題	・移行に伴う問題 ・入学以前から抱えてきた問題	・筋力・スランプ ・生きがい ・対人関係をめぐる問題	・卒業を前に未解決な課題に巻きこむ ・卒業後の混乱	・研究生生活への違和感 ・能力への疑問 ・講義室での対人関係 ・指導教員との関係

→ 心身の不調は出席状況の変化(不登校傾向)、履修状況(成績、単位数)の変化として現れることが多い

8

**Ⅲ. 不登校学生への支援**

**1. 不登校学生支援の困難さ**

- 相談を継続した学生 → 卒業もしくは主体的進路変更が多い
- 相談を継続できない学生 → 本意な形での退学が多い
- 自発的来談、焦点化された悩み → 相談が継続しやすい
- 受身的来談、悩みの拡散 → 相談が中断しやすい

→ 不登校学生の中には、悩みそのものが拡散しており、支援に対しても受身的で、相談援助そのものを継続しにくい(ドロップアウトしてしまう)学生が少なくない

9

**2. 不登校学生の支援**

(1) 支援ネットワークの形成  
→ 教職員による日常的な学生指導と専門的支援の場の有機的連携、協働(コラボレーション)

(2) 支援ネットワークに学生を「つなぐ」こと

**3. 専門的支援の場**

- キャンパスライフなんでも相談室
- 保健管理センター健康相談室
- 不登校傾向学生の居場所としての「びあROOM」  
→ 問い合わせは学生支援課、保健管理センター

10

(出典：ミニFD配付資料から抜粋)

資料 1-1-15 : ひあ ROOM 利用状況

【21.4月分～22.2月分】

【相談等延件数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
社会福祉士	52	58	83	95	36	33	136	79	74	91	68	71	876
臨床心理士	14	24	107	117	16	18	26	19	24	27	22	16	240
精神科医師	32	25	23	39	21	27	30	33	38	31	31	30	360
社会福祉士	10	13	5	2	7	6	0	17	7	9	10	23	109
臨床心理士	0	0	15	8	0	0	6	0	1	0	0	11	31
精神科医師	5	2	3	1	2	0	4	4	3	0	1	3	28
社会福祉士	15	1	20	19	0	2	0	3	0	3	3	8	74
臨床心理士	2	2	7	28	1	4	11	4	2	1	0	0	41
精神科医師	3	4	3	7	3	3	12	10	6	5	4	6	72
社会福祉士	0	1	1	0	0	0	4	5	3	3	3	4	24
臨床心理士	0	0	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
精神科医師	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
社会福祉士	27	25	15	37	14	14	25	17	26	20	27	31	278
臨床心理士	0	0	25	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0
精神科医師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会福祉士	104	98	124	153	57	55	165	121	110	126	111	137	1361
臨床心理士	16	26	16	24	17	25	31	23	27	28	22	17	272
精神科医師	46	32	29	47	26	30	46	47	47	36	36	39	461

【学習サポートデスク利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実数	4	4	5	5	1	1	3	4	6	6	11	4	【実数: 9】
延数	11	6	19	24	1	2	6	15	27	31	68	36	246
実数	1	5	4	5	0	0	6	5	7	7	5	1	【実数: 13】
延数	4	18	20	33	0	2	15	10	28	19	23	8	180
実数	11	32	19	31	6	5	21	12	28	21	17	9	【実数: 46】
延数	91	122	110	131	14	23	134	90	110	84	100	29	1038
実数	16	41	28	41	7	7	30	21	41	34	33	14	【実数: 68】
延数	106	146	149	188	15	27	155	115	165	134	191	73	1464

【フリースペース利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実数	7	8	9	12	5	6	12	12	9	12	9	10	【実数: 12】
延数	46	32	59	86	34	40	87	83	72	74	76	78	767
実数	8	9	9	10	1	4	9	11	6	7	7	6	【実数: 24】
延数	30	35	48	47	9	20	41	48	43	32	33	18	404
実数	13	20	13	10	6	5	15	12	13	10	10	6	【実数: 20】
延数	53	57	68	46	18	26	100	74	74	53	58	32	659
実数	28	37	31	32	12	15	36	35	28	29	26	22	【実数: 56】
延数	129	124	175	179	61	86	228	205	189	159	167	128	1830

(出典: 学生支援課作成)



## 資料 1-1-16：平成 21 年度学生支援の状況

(学生支援における通常の予算配分)

	費 目 (支援内容)	金 額 (万円)
日野原	課外活動費 (物品購入・施設改修等)	330
	学生会館運営費 (貸出物品購入・施設改修等)	80
	サークル研修費 (バス借上げ等)	120
	学生支援課経費 (学園祭補助等)	160
挾間	厚生補導事業費 (物品購入・施設改修等)	167
共通	大分大学生き <sup>2</sup> プロジェクト経費 (プロジェクト活動経費)	200
	学生支援協力金 (外部指導者謝金・インセンティブ付与等)	280
合 計		1,337

(平成 21 年度に実施した特別支援内容)

	費 目 (支援内容)	金 額 (万円)
日野原	学生支援経費 (活動備品の更新・新規購入等)	1,530
	プールろ過機改修経費 (ろ過機周辺機器の更新)	330
	部室棟新設経費 (部室棟新設・備品設置)	3,810
	陸上競技場トイレ改修経費 (屋外トイレの改修)	830
	野球場トイレ新設経費 (屋外トイレ新設)	970
	体育館ハンガードア改修経費 (ハンガードアの改修)	390
挾間	厚生補導事業費【追加】 (物品購入・施設整備等)	114
	学生支援経費 (活動備品の更新・新規購入等)	909
	課外活動施設整備費 (野球場グラウンド整備)	214
合 計		9,097



新設された部室棟



更新された課外活動備品(ヨット)

(出典：学生支援課作成)



大分大学医学部附属病院  
総合臨床研究センター  
General Clinical Research Center, Oita University Hospital

[○お問合せ](#)
[○アクセスマップ](#)
[○リンク](#)
[▶サイトマップ](#)
[▶プライバシーポリシー](#)



- | 設立にあたって
- | 特色・活動内容
- | 組織体制
- | 治験について
- | クリニカル  
トライアル部門
- | 臨床試験支援部門
- | 事務部門
- | ネットワーク部門
- | データセンター部門
- | 臨床研究審査委員会  
(IRB)

[▶ 報道一覧](#)

[▶ セミナーの紹介](#)

[臨床薬理センター  
WEBサイト](#)



豊の国臨床試験ネットワーク  
豊ネット



グローバル  
早期臨床試験推進のための  
大学病院ネットワーク  
J-CLIPNET



大分大学  
医学部  
OITA UNIVERSITY FACULTY OF MEDICINE

### ::: 総合臨床研究センターの設立にあたって

○ごあいさつ

昨今の日本国内の治験の海外流出による空洞化の問題は、経済面からのみでなく倫理的観点からも問題となり、第Ⅰ相からⅢ相までの臨床試験や質の高い成果が求められた結果、厚生労働省・文部科学省の治験活性化5ヵ年計画が策定されました。日本全国10箇所を厚生労働省が治験中核病院として指定しましたが、大分大学医学部附属病院は関東・関西以外で唯一の指定であり、その成果が日本全体の治験事業に影響を及ぼすことから、大分大学として全学的な取り組みが必要となりました。そこで早期臨床試験施設クリニカルトライアルユニットの開設、国内共同・国際共同試験を支援する体制として、大分大学附属病院の臨床研究体制を一元化した総合臨床研究センターを設置しました。総合臨床研究センターの設立により大分大学附属病院が日本と東アジアにおける臨床試験・臨床研究の拠点のひとつに発展することを希望しています。

大分大学医学部附属病院において治験を含む臨床試験の支援・実践を一元化するために総合臨床研究センターが開設されました。大分大学医学部附属病院では新GCPが施行後まもなく、全国に先駆け臨床研究コーディネーター(CRC)が臨床薬理センターに配置され、治験を含む臨床研究の推進に取り組んできました。また、豊の国臨床試験ネットワークを立ち上げ、現在では10幹事施設を含め57医療機関が参加し、大分県の医療の向上に寄与してきました。平成19年度に厚生労働省より治験中核病院に選定され、地域は勿論のこと、全国の医療機関を支援する体制が求められることになりました。このため、本附属病院をあげて、治験を含む臨床試験の活性化に寄与するために、総合臨床研究センターを開設することになりました。この総合臨床研究センター内に全国の国立大学病院で初めて病棟内に臨床試験専用病床を有するクリニカルトライアルユニットを創設し、専任のCRC等を配置いたしました。これによりグローバル早期臨床試験を円滑に実施する体制が整いました。我々スタッフ一同は国民の皆様によりよい医薬品をいち早く届けることにより、医療・福祉の向上に努めたいと考えております。



総合臨床研究センター  
センター長  
野口 隆之

このページの先頭へ ▲

TOPページに戻る ◀



総合臨床研究センター  
副センター長  
大橋 京一

[○お問合せ](#)
[○アクセスマップ](#)
[○リンク](#)
[▶サイトマップ](#)
[▶プライバシーポリシー](#)


資料 2-1-2：国際交流協定校一覧（アジア関係のみ）

国際交流協定校等（アジア関係のみ表記）		2010.5.5現在
国・地域（数）	大 学 名	内 容
韓国（14）	南ソウル大学校	学生交流（5人）
	忠州大学校	学術交流・学生交流（5人）
	西京大学校	学術交流・学生交流（5人）
	嶺南大学校	学術交流・学生交流（5人）
	ソウル女子大学校	学生交流（5人）
	高麗大学校	学術交流・学生交流（5人）
	梨花女子大学校	学術交流・学生交流（5人）
	順天大学校	学術交流・学生交流（5人）
	培材大学校	学術交流・学生交流（5人）
	暎園大学校	学術交流・学生交流（5人）
	江南大学校	学術交流・学生交流（5人）
	釜山大学校	学術交流・学生交流（5人）
	江陵大学校	学術交流・学生交流（5人）
	光州大学校	学術交流・学生交流（5人）
江漢大学	学術交流・学生交流（2人）	
中国（13）	河北医科大学（医学部との学部間交流）	学術のみ
	中華人民解放軍軍医進修学院（医学部との学部間交流）	学術のみ
	遼寧師範大学	学生交流（5人）
	香港大学	学術交流・学生交流（5人）
	河北師範大学	学術交流・学生交流（5人）
	華中科技大学	学術交流・学生交流（5人）
	深セン大学	学術交流・学生交流（5人）
	南陽理工学院	学術交流・学生交流（5人）
	対外経済貿易大学	学術交流・学生交流（5人）
	中南財経政法大学	学術交流・学生交流（5人）
	中国科学院新疆理化技術研究所	学術交流
	武漢大学	学術交流・学生交流
	東海大学	学生交流（5人）
台湾（1）	高雄医学大学（医学部との学部間交流）	学術のみ
	チェンマイ大学	学術交流・学生交流（5人）
タイ（3）	コンケン大学	学術交流・学生交流（5人）
	チュラロンコン大学（医学部との学部間交流）	学術交流・学生交流
インドネシア（2）	バンドン工科大学	学術交流・学生交流（3人）
	アイランガガ大学医学部（総合科学研究支援センターとの協）	学術のみ
ベトナム（6）	ハノイ医科大学	学術交流・学生交流
	ホーチミン医科薬科大学	学術交流・学生交流
	チョーライ病院	学術交流・学生交流
フィリピン（2）	ベトナム国立大学ハノイ校経済大学	学術交流・学生交流（5人）
	108病院	学術交流・学生交流
	サン・ラザロ病院 セントルークス病院	学術交流・学生実習 学術交流・学生実習

（出典：国際交流協定校一覧から抜粋）

資料 2-1-3：ピロリ菌国際会議

The 2nd Meeting of Asian *Helicobacter* Study Group  
Molecular Epidemiological Studies of *Helicobacter pylori* in Asian Countries



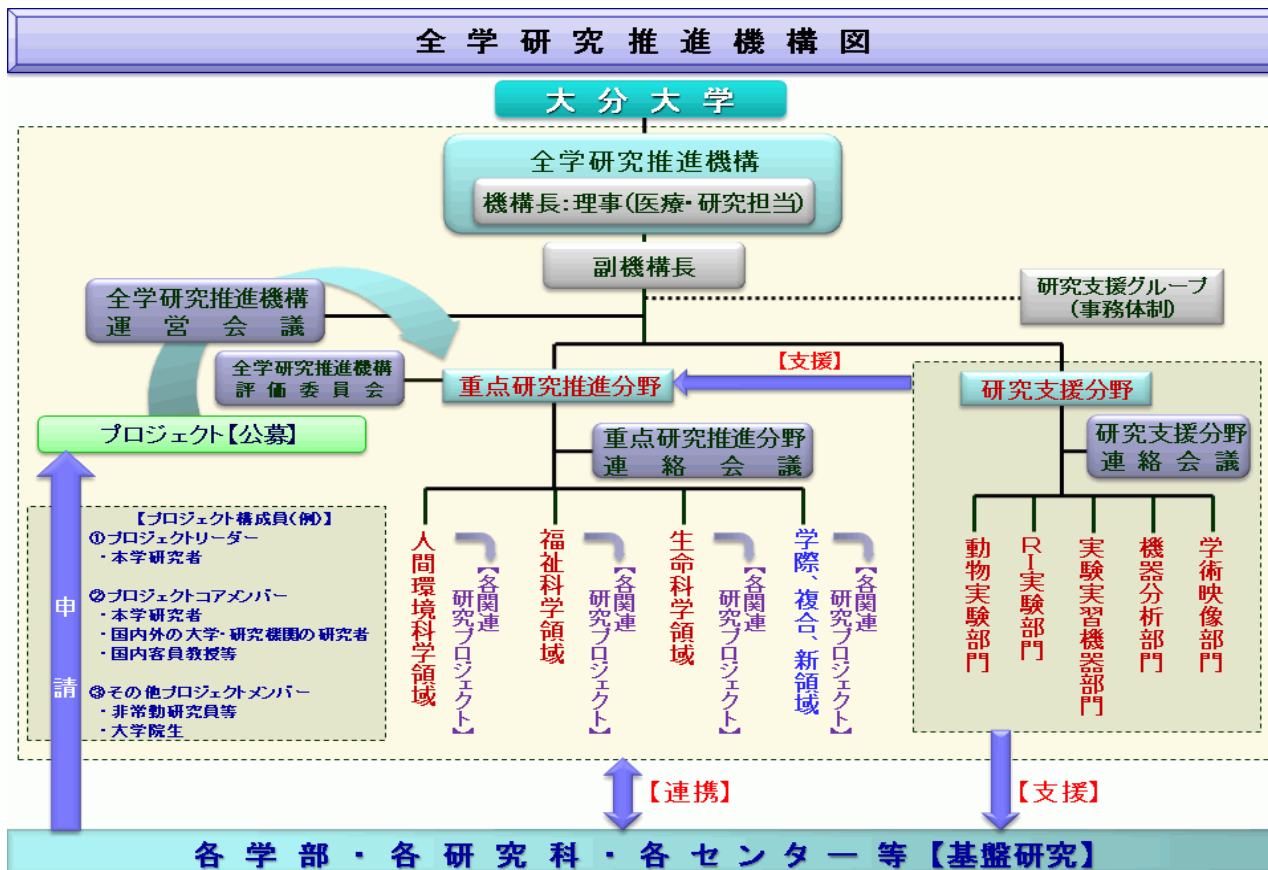
OTTA UNIVERSITY

Time and Date  
Saturday, February 6, 2010

Venue  
Kyushu, Beppu Suginoi-Hotel  
Kankaiji 1, Beppu, Oita, 874-0822, Japan  
TEL: +81-(0)977-24-1141  
FAX: +81-(0)977-21-0010  
<http://www.suginoi-hotel.com/english/index.html>

（出典：ピロリ菌国際会議資料から抜粋）

資料 2-1-4：全学研究推進機構図



(出典：全学研究推進機構ホームページから抜粋)

資料 2-1-5：平成 21 年度大分大学ステークホルダー・ミーティング報告書

## 平成21年度 大分大学自己評価にかかる ステークホルダー・ミーティング 報告書

平成22年3月  
国立大学法人 大分大学

### 目次

I はじめに	… 1
II ステークホルダー名簿	… 2
III ステークホルダーのご意見	… 3
1. ご意見の概要	… 3
2. 項目別のご意見と本学の方針	… 4
(1) 大分大学の理念及び目標	
(2) 教育活動	
(3) 研究活動	
(4) 施設・設備	
(5) 社会貢献活動	
(6) 学内共同教育研究施設等	
(7) 管理運営	
IV ステークホルダー・ミーティング議事概要	… 20
参考	… 24

(出典：平成 21 年度大分大学ステークホルダー・ミーティング報告書から抜粋)



## 資料 2-1-6：全学研究推進機構採択プロジェクト

## 全学研究推進機構 研究プロジェクト 採択課題一覧 領域（人間環境科学領域）

番号	代表研究者	部局・職名	課 題 名
1	藤倉 義久	医学部 教授	ホルムアルデヒド代替液による組織固定法の開発
2	山岡 吉生	医学部 教授	アジアにおけるヘリコバクター・ピロリ菌を用いた環境・疫学研究
3	井上 正文	工学部 教授	木竹材料の性能向上技術構築による地球環境保全への寄与
4	アハメド カムルディン	全学研究推進機構准教授	ヒト・動物・人工物を含む環境中微生物のメタゲノム解析
			採択件数 4件

## 全学研究推進機構 研究プロジェクト 採択課題一覧 領域（福祉科学領域）

番号	代表研究者	部局・職名	課 題 名
1	清田 晃生	医学部 助教	小児白血病長期生存例における化学療法，放射線療法の身体発達，精神発達，心理学的影響に関する検討
2	寺尾 岳	医学部 教授	自殺に影響する要因に関する多角的検討と自殺予防システムの構築
3	今戸 啓二	工学部 教授	スクワット支援装置の開発
4	衣笠 一茂	大学院福祉社会科学部 准教授	小地域における「コミュニティ・ソーシャルワーク」推進モデル 実験研究
			採択件数 4件

## 全学研究推進機構 研究プロジェクト 採択課題一覧 領域（生命科学領域）

番号	代表研究者	部局・職名	課 題 名
1	穠吉 條太郎	医学部 准教授	レーザー照射によるうつ病治療研究
2	熊本 俊秀	医学部 教授	難治性神経筋疾患克服リサーチコア事業
3	白尾 国昭	医学部 教授	バイオインフォマティクス的手法を用いた癌ゲノム情報の統合と抗がん剤感受性責任遺伝子の同定
4	谷口 繁生	医学部 助教	硫化水素はインスリン分泌細胞を保護する-その作用特性について-
5	濱田 文彦	医学部 教授	Wnt シグナル伝達経路の新規制御因子 Goliath の機能解析
6	藤原 作平	医学部 教授	表皮細胞におけるエピブラキンの存在様式
7	松浦 恵子	医学部 准教授	網羅的遺伝子解析による腎癌の発癌と進展の責任遺伝子の同定
8	松尾 哲孝	医学部 准教授	放射線照射によるコラーゲン遺伝子発現調節メカニズムの解明
9	佐久間 俊雄	工学部 教授	形状記憶合金を用いた複合アクチュエータシステムの構築
			採択件数 9件

## 全学研究推進機構 研究プロジェクト 採択課題一覧 領域（学際・複合・新領域）

番号	代表研究者	部局・職名	課 題 名
1	柿原 武史	経済学部 准教授	国際結婚及び日本在住外国人の言語使用と子供の言語教育
2	仲本 大輔	経済学部 准教授	まちづくり・むらづくりと支援 - 大分県と隣接市町村を中心として -
3	西園 晃	医学部 教授	医工連携による新規ワクチンデリバリーシステムの開発
4	豊田 昌宏	工学部 教授	ナノ炭素材料の医療技術への適用の試みとナノ炭素材料の評価
5	劉 孝宏	工学部 教授	振動抑制の最適化と完全制振技術の構築に関する研究
6	尾澤 重知	高等教育開発センター 准教授	簡易型ビデオ収録機器を用いた学習支援システムの構築と実践での評価
7	隈本 順子	国際教育研究センター 教授	派遣留学の拡大と学生の動機づけの研究
			採択件数 7件

## 研究プロジェクト 採択件数

領 域	採択件数
人間環境科学領域	4
福祉科学領域	4
生命科学領域	9
学際・複合・新領域	7
合 計	24

（出典：研究協力課作成）

資料 2-1-7：科学技術総合推進費補助金交付決定通知書

21 学文科科第 6667 号  
平成 21 年 7 月 1 日

国立大学法人大分大学  
学長 羽野 忠 蔵

文部科学大臣 堀 谷 立

平成 21 年度科学技術総合推進費補助金交付決定通知書

平成 21 年 6 月 5 日付で申願のあった欄記の補助金については、科学技術総合推進費補助金交付要綱第 5 条第 1 項の規定により、下記のとおり交付することに決定しましたので、通知します。

記

1. 補助事業の名称  
国際共同研究の推進  
アジアにおけるヘリコバクター・ピロリ菌の分子生物学研究

2. 補助金の交付決定額  
22,364,999 円

3. 補助金の交付の対象となる事業は、申請のあった平成 21 年度科学技術総合推進費補助事業としてその内容は交付申請書記載のとおりとする。

4. 補助事業者は、補助金等に関する予算の執行の適正化に関する法律（昭和 30 年法律第 179 号）及び回法施行令（昭和 30 年政令第 255 号）並びに科学技術総合推進費補助金交付要綱（平成 21 年 1 月 16 日文科科学大臣決定）及び科学技術総合推進費補助金取扱要領（平成 21 年 1 月 16 日科学技術・学術政策局長決定）に従わなければならない。

5. 補助条件は、前項に定めるもののほか、次のとおりとする。  
 (1) 補助事業者は補助事業に要する経費の配分の変更をする場合、補助金の直接経費について、補助金の交付決定額に影響を及ぼすことなく、補助対象経費の直接経費の費目の額を、交付決定額のうち直接経費の総額の 30%または 300 万円のいずれか高い額を超えて増額する場合には、事前に文部科学大臣の承認を受けなければならない。

（出典：科学技術総合推進費補助金交付決定通知書）

資料 2-1-8：研究者海外派遣基金助成金交付決定通知書

学振第 14 号

研究者海外派遣基金助成金（継続的若手研究者等海外派遣プログラム）平成 21 年度公額  
交付決定通知書

国立大学法人大分大学学長

平成 21 年 2 月 26 日

独立行政法人日本学術振興会理事長 小野 芳之

記

1. 助成金の交付の対象となる事業等名は次のとおりであり、その内容は交付申請書に記載のとおりとする。  
 事業名称：東アジア分子生物学研究推進のための若手研究者派遣プログラム  
 機関名：大分大学  
 代表研究員氏名：医学系研究科

2. 交付する助成金の額は次のとおりとする。  
 交付決定額 25,800,000 円（うち 事業実施経費 24,704,000 円、 一般管理費 1,096,000 円）

3. 助成事業者は、補助金等に関する予算の適正化に関する法律（昭和 30 年法律第 179 号、以下「適正化法」といふ。）同法施行令（昭和 30 年政令第 255 号）及び研究者海外派遣基金助成金（継続的若手研究者等海外派遣プログラム）取扱要領（平成 21 年 1 月 27 日厚労省第 25 号）に準拠しなければならない。また、その他関係法令を遵守すること。

4. 助成条件は、前項に定めるもののほか次のとおりとする。  
 (1) 助成事業の事業実施期間は次のとおりとする。  
 平成 22 年 3 月 1 日～平成 25 年 2 月 28 日  
 (2) 助成事業者は、助成事業を遂行するため契約を締結し支払いを行う場合は、公正かつ最小の費用で現次の効果を得るよう経費の効率的利用に努めなければならない。  
 (3) 助成事業者が、この助成金による成果により利益を得た場合には、その利益の範囲内で助成金の返還を命ずることがある。  
 (4) 助成事業者が、取得経費等を処分することにより、収入が足り、又は収入が足りないと見込まれるときは、交付した助成金の全額又は一部に相当する金額を本会に寄付させることができる。  
 (5) 助成事業者は、助成事業の実施に当たり、法令、通知及び等研究奨励等で定められた規定等により、承認、届出・確認等が必要な場合は所定の手続きを行わなければならない。  
 (6) 助成事業者は、助成事業で派遣される者に対し、派遣先において研究活動に専念させるよう適切な事業の実施に努めなければならない。

5. この交付決定の内容は又はこれに付した条件に不届があることにより、助成金交付の申請を取り下げようとするときは、本通知書受領の日から 14 日以内その旨を記載した書面を本会に提出すること。

（出典：研究者海外派遣基金助成金交付決定通知書）

## 資料 2-1-9：国際交流・学術振興基金の見直しの状況

平成20・21年度の予算額及び平成22年度からの予算額

事業の名称		事業の内容	予 算
国際 交 流 事 業	学生の海外派遣・ 留学生の受入れ事業 注1)	本学に在学する外国人留学生以外の学生を、外国 の大学に派遣するための助成	210万円以内
		本学に在学する外国人留学生で、経済的に困窮す る私費外国人留学生に対する助成	228万円以内
	<del>研究者等の海外派遣 事業注1)</del>	<del>海外での学術研究集会に出席し発表、報告等を行 う研究者等及び事務職員の海外派遣研修等への 助成</del>	<del>100万円以内</del>
	<del>外国人研究者等の 招へい事業注1)</del>	<del>滞在する研究者等にかかる助成</del>	<del>90万円以内</del>
	<del>国際研究集会等の 開催事業注1)</del>	<del>本学が主催又は共催する国際研究事業への資金 助成</del>	<del>20万円以内</del>
	その他国際交流・学術 振興に関する事業 注1)	協定校との交流実施にかかる経費の助成、外国に 対する大学広報にかかる経費の助成、その他学長 が必要と認めた事業への助成	<del>170万円以内</del> 162万円以内
学術 振 興 事 業	<del>学術に関する 研究の推進事業注1)</del>	<del>学会開催、学術講演会等への助成</del>	82万円以内
	<del>地域社会との 学術交流事業</del>	<del>大学開放行事への助成</del>	
	<del>その他学術振興に関す る事業注1)</del>	<del>その他学術振興に関する事業で学長が特に必要 と認めた事業への助成</del>	

注1) 医学部を除く 予算の上限額 ~~900万円~~ 600万円 (医学部を除く)  
二重取消し線及び朱書きは、平成22年度からの変更箇所

大分大学国際交流・学術振興基金の受入 平成21年度 360,000円

(出典：国際交流課作成)

## 資料 2-1-10：平成20・21年度の経済学部久保奨学基金の予算額

事 項		事業の内容	予 算
国 際 交 流 事 業	I B P 参加学生への 補助	インターナショナル・ビジネス・プログラムの(IBP)に登録し、派 遣留学生として海外留学する者のうち、留学期間 に関して学内外の他の奨学金を受けていない者	384万円(H20) 300万円(H21)
	海外留学の学生補助	派遣留学生として海外留学する者のうち、「IBP 学生の留学期間中の奨学金」の対象以外の者で、 留学期間に関して学内外の他の奨学金を受けて いない者	144万円(H20) 120万円(H21)

(出典：国際交流課作成)

## 資料 3-1-1：福祉のまちおこし研究事業 平成 21 年度事業報告

## &lt;フィールド 1&gt; 別府市中心市街地 倉持香苗

朝市とカフェによる交流促進とコミュニティ活性化  
 カフェとサロンの社会実験と参与観察、インタビュー調査  
 まちなかカフェ はまわきサロン 浜脇朝市 べっぴん優ゆう子ども朝市  
 まちなかカフェ報告会（3月10日 19：00～）  
 協力：別府市中心市街地活性化協議会、別府市

## &lt;フィールド 2&gt; 高齢化が進む郊外住宅団地 富士見が丘団地 松ヶ丘団地

脇野幸太郎 イ・サンユン  
 障害者施設と自治会の共催での朝市による交流促進とコミュニティ活性化、  
 参与観察とインタビュー調査 @松ヶ丘  
 福祉ネットワーク@富士見が丘  
 協力：大分市松が丘連合自治会、富士見が丘連合自治会

## &lt;フィールド 3&gt; 超高齢化が進む農山村地域 大分市竹中校区

イ・サンユン 脇野幸太郎  
 ヒアリング調査と全戸アンケート調査による実態把握と課題抽出  
 竹中校区地域生活基礎調査結果に関する報告会  
 期日：2010年2月27日（土） 14：55～16：40  
 場所：竹中公民館  
 協力：竹中自治会、大分市

## &lt;フィールド 4&gt; 郊外社会福祉施設所在地域 別府市亀川地区

岡達哉 倉持香苗  
 ヒアリング調査と既存アンケート調査による実態把握と課題抽出

## &lt;共同研究&gt;

韓国尚志大学 宋鄭府 教授 他  
 共同研究会の実施（11月24日）  
 協力：大分県社会福祉協議会・大分県社会福祉介護研修センター他

英国オックスフォード大学テレザ・スミス講師（前研究科長）他

日 程：平成 22 年 2 月 5 日（金）～ 2 月 6 日（土）

場 所：教養教育棟 2 F 27 講義室

報告者・コメンター

英国 テレザ・スミス（オックスフォード大学 前研究科長）  
 ジョージ・スミス（オックスフォード大学 元研究科長）  
 藤原裕子（オックスフォード大学 修士課程）  
 日本 武川正吾（東京大学教授）  
 足立基浩（和歌山大学准教授）  
 椋野美智子（大分大学福祉科学研究センター教授）他

## &lt;関連&gt;

大分別府都市圏地域公共交通総合連携計画 椋野美智子・大井尚司・脇野幸太郎  
 歩行車の高機能化に関する研究 池内秀隆 岡 達哉  
 高齢者福祉海外先進事例調査（3月）奥田憲昭・岡 達哉

（出典：研究協力課作成）



資料 3-1-2 : 大分大学「平成 21 年度 MOT (技術経営) 講座」一覧

区分	開催日	講座名等	講師
		キーコンセプト	
1	9月21日(金)	「MOT型」中小企業 MOTの地場企業モデル	大分大学経済学部 教授 松尾 純廣 氏
2	8月28日(金)	MOTと中小企業1 中小企業のイノベーション	(株)テカ・インテグレーション代表取締役 大分大学客員教授 出川 通 氏
3	9月4日(金)	MOTと中小企業2 中小・ベンチャー企業のMOT事例	(株)テカ・インテグレーション代表取締役 大分大学客員教授 出川 通 氏
4	9月11日(金)	企業間連携 大手との連携手法	大分大学経済学部 教授 松尾 純廣 氏
5	9月18日(金)	工場見学・HOKS	
6	9月18日(金)	生産管理システム 5Sという生産システム	大分大学経済学部 教授 松尾 純廣 氏
7	9月25日(金)	サービスマーケティング 付加価値マーケティング	大分大学経済学部 教授 松尾 純廣 氏
8	10月2日(金)	技術戦略、BtoBマーケティング 中小企業の開発手法	群馬大学共同研究イノベーションセンター 大分大学客員教授 伊藤正実 氏
9	10月16日(金)	産学連携 産学連携の使い方	群馬大学共同研究イノベーションセンター 大分大学客員教授 伊藤正実 氏
10	10月23日(金)	技術による利益創出 技術を利益に変える手法	安部中小企業診断士事務所 安部 博文 氏
11	10月30日(金)	アントレプレナーシップ MOTと起業家精神	安部中小企業診断士事務所 安部 博文 氏
12	11月6日(金)	知財戦略 知的財産の使い方	群馬大学共同研究イノベーションセンター 大分大学客員教授 伊藤正実 氏

(出典：社会連携推進課作成)

資料 3-1-3：豊の国ものづくり展開催概要

**「豊の国ものづくり展 ～産・学・官共同研究から生まれた逸品～」開催概要**  
大分県内 8 大学等による産学官共同研究事例発表

**イベントの主旨**  
地域連携研究コンソーシアム大分を構成している大分県内 8 大学等と民間企業との共同研究により開発された「大分発の技術・商品」を、大分県内はもとより日本全国または世界に広げようとする。県内の方々に発表・展示して、産学官連携戦略展開事業(戦略展開プログラム)の取り組みへの理解促進を図り、大分県のものづくりの発展やさらなる県内の産学連携、研究・開発の促進を図ります。  
また、その取り組みの一事例として、産学共同研究で開発された技術・商品が、現在、社会の関心の高いインフラ政策に有効なことも講演・セミナー等を通して発表します。

<b>日時</b>	平成 21 年 10 月 22 日 (木) 10 時～16 時 30 分
<b>会場</b>	大分全日空ホテル オアシスタワー 5F「孔雀の間」
<b>内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○展示会 地域連携研究コンソーシアム大分を構成している県内 8 大学等の研究分野と民間企業との共同研究により開発された商品を展示</li> <li>○セミナー 各大学等・企業の取組みをセミナー形式で発表</li> <li>○相談会・商談会 産学連携研究に関する相談会・商談会の実施</li> <li>○講演会 ゲストによる講演会</li> </ul>
<b>参加対象</b>	一般市民、企業、大学、学生
<b>主催</b>	大分合同新聞社・地域連携研究コンソーシアム大分
<b>後援</b>	大分県・(有)大分TLO
<b>協賛</b>	ダイキン工業㈱
<b>協力</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>㈱エートス、大分市水産物流通加工協議会、杵築市、タックヒルファーム、</li> <li>㈱タマガエ、後藤機器㈱、株式会社本郷、サンセツミックス㈱、三和酒造㈱、</li> <li>昭和電機システム㈱、㈱ゼロテクノ、㈱つえエービー、塚崎薬品工業㈱、</li> <li>ファームテック㈱、ミヤシシステム㈱、八鹿酒造㈱</li> </ul>

※:地域連携研究コンソーシアム大分  
(大分大学 大分県立看護科学大学 大分県立芸術文化短期大学 大分工業高等専門学校  
日本文理大学 別府大学 別府大学短期大学部 立命館アジア太平洋大学)

お問い合わせ:「豊の国ものづくり展 ～産・学・官共同研究から生まれた逸品～」事務局  
◇ 大分合同新聞社 コミュニケーション開発室 担当: 高屋  
住所: 870-8905 大分市府内町 3 丁目 9 番 15 号 TEL: 097-538-9646  
◇ 国立大学法人大分大学 イノベーション(機構)サーチ・フロンティア 担当: 二宮・坂本  
住所: 870-1192 大分市大字且野原 700 番地 TEL: 097-554-7021 (代表)

(出典：豊の国ものづくり展開催概要から抜粋)

資料 3-1-4：産学官連携戦略展開事業（戦略展開プログラム）シンポジウム

平成 21 年度文部科学省

# 産学官連携戦略展開事業

## (戦略展開プログラム) シンポジウム

～おおいいたイノベーション創出拠点の目指すもの～

**日時**: 平成 22 年 3 月 26 日 (金) 13:00～17:00

**場所**: 大分全日空ホテル オアシスタワー

**講演**

**「おおいいた」における「学」からのイノベーション創出への取り組み**

- ・地域連携研究開発プロジェクトへの取り組み
- ・大分大学工学部電気電子工学科教授 榎岡 正人
- ・産学連携推進のための取り組み
- ・大分大学工学部応用化学科教授 豊田 昌宏
- ・未利用おおいいた資源の活用 - コスメータと大豆果汁
- ・大分大学工学部応用化学科准教授 石川 雄一

**パネルディスカッション**

**「おおいいたイノベーション創出拠点の目指すもの」**

<b>コーディネーター</b>	大分大学 副学長 (国際・社会連携担当) 田中 充
<b>パネラー</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大分県産工労働部長 米田 健三</li> <li>大分県 LSI クラスタ形成推進協議理事 丸井 彰</li> <li>大分県自動車関連企業会長 岡本 勝美</li> <li>産学官連携研究会代表 榎岡 正人</li> <li>(株)フスエービー代表取締役 長谷部 建美</li> </ul>
<b>モデレーター</b>	大分大学工学部応用化学科教授 豊田 昌宏
	大分大学工学部応用化学科准教授 石川 雄一

**問合せ・申込み先**

**大分大学イノベーション機構リエゾンオフィス**

〒870-1192 大分市大字且野原 700 番地  
TEL 097-554-8533 FAX 097-554-7740  
E-mail: [tren@ed.ots-u.ac.jp](mailto:tren@ed.ots-u.ac.jp)  
URL: <http://www.innovation.ots-u.ac.jp/symposium/index.html>

(出典：産学官連携戦略展開事業（戦略展開プログラム）シンポジウムポスター）

26

## 資料 3-1-5：学生・研究生等の派遣・受入状況

## JICA 奨学生及び JICA 青年研修事業研修生の受入

	平成 20 年度	平成 21 年度	備 考
経済学部	1 名	1 名	奨学生（ガーナ）
工 学 部	-	1 名	研修生（ベトナム）

## JICA 調査団員派遣及び研修員の受入

	平成 20 年度	平成 21 年度	備 考
医学部（派遣）	3 名	7 名	ドミニカ共和国，セリア共和国
医学部（受入）	2 名	6 名	ドミニカ共和国，エトリア

## 外国人客員研究員の受入

	平成 20 年度	平成 21 年度	備 考
医 学 部	15 名	15 名	

## JICA 食の安全確保のための人畜共通感染症対策コースに係る視察

平成 22 年 2 月 23 日（火）10：00～12：00 研修員 11 名

## 国別研修（ミャンマー）「マラリア対策」に係る研修

平成 21 年 10 月 30 日（金）～11 月 10 日（火） 研修員 2 名

## 学生の派遣

	平成 20 年度	平成 21 年度	備 考
医 学 部	8 名 (9/14～9/27)	3 名 (9/6～9/19)	医学科（フィリピン国立サンラザロ病院）

## 学長裁量経費の措置

	平成 20 年度	平成 21 年度	備 考
医 学 部	サン・ラザロ病院での国際・熱帯 感染症看護実践教育プログラム	国際医療活動への体験学習事業	

（出典：国際交流課調べ）



## 大分大学 トピックス

### 大分大学長から教職員に表彰状を授与

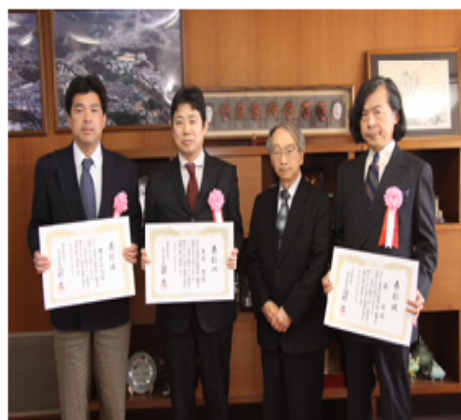
本学は、平成22年3月17日に、平成21年1月から平成21年12月までの期間を対象とし、顕著な功績のあった教職員を対象に学長表彰を行いました。

平成19年度から始まり3回目となる今回の学長表彰では、業務上特に顕著な功績があった3名の教職員(医学部1名、工学部2名)が表彰されました。

表彰式終了後には、学長室で和やかな雰囲気の中、学長と被表彰者の懇談会が行われました。

なお、各氏の受賞理由等は以下のとおりです。

所属	職名	氏名	推薦理由(概要)
工学部	准教授	田上 公俊	15th Small Engine Technology Conferenceにて(発表論文98件中)最優秀論文賞を受賞。
工学部	准教授	天尾 豊	先端錯体工学研究会奨励賞を受賞。 (「金属錯体分子を駆使した光駆動型有機分子変換プロセスの開発に関する研究」)
医学部	教授	森 宣	ドミニカ共和国中米カリブ地域画像診断技術向上(第3国研修)プロジェクトの最終 時評価において、極めて高い評価が与えられた。



学長を囲み記念撮影



学長と被表彰者の懇談会の様子

戻る